



e-Success-V6.5 Web サービス

導入・操作マニュアル

2025 年 5 月 11 日

目 次

1. ■更新履歴	3
2. はじめに	5
本マニュアルの使い方	5
システムの環境	5
3. ◆導入・設定編◆	6
1. Web サイトの構築	7
A. Web サーバー（IIS）をインストールする	7
B. e-Success Web サービスを準備する	10
C. e-Success Web サービスを構築する	13
D. ASP.NET 状態サーバーを実行する	18
E. e-Success Web サービスの動作を検証する	19
F. クライアントのアップデート機能の有効化（オプション）	20
G. アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定（オプション）	25
2. アップデート	30
A. Web サービスをアップデート	30
◆書類作業編◆	34
1. e-Success Web サービスの起動	35
A. e-Success Web サービスを起動する	35
B. e-Success Web サービスにログインする	35
2. 書類検索・検証・表示	36
A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索する	36
B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示する	41
3. e-Success リンクビューによる書類表示	46
A. URL 情報出力の CSV ファイルを作成する	46
B. e-Success アプリケーションで CSV ファイルを出力する	46
C. URL 情報出力アプリケーションで CSV ファイルを出力する	48
D. e-Success リンクビューで書類を表示する	51
4. 他システムデータの一括取込	54
A. 一括取込の概要	54
B. 一括取込の電子ファイルを保存する	56
C. 他システムのデータを取り込む	59
制限・注意事項一覧	65

1. ■更新履歴

◆注意◆ お問い合わせ

製品の不具合、機能の修正、ライブラリの更新などの製品の改訂履歴につきましては、セットアップファイルに含まれております「e-Success-V6.4.0 はじめにお読みください.txt」を確認してください。

◆注意◆ マニュアルに記載がなく、関連性のない操作について

本製品をご利用するに当たり、マニュアルに記載がない、もしくは関連性のない操作につきましては、サポート対象外となります。あらかじめご了承ください。

- 2023/05/01 初版発行
- 2023/11/20 改訂 製品のバージョンを e-Success-V6.1 に変更
- P.16 「◆注意◆ Docuworks ファイルの閲覧機能のバージョン指定」を追加
 - P.25 「2. アップデート」を追加
 - P.35 「◆注意◆ Web ブラウザで表示可能なファイルについて」の CSV の解説を更新
 - P.46 「◆注意◆ CSV ファイルのプレビューについて」を追加
 - P.56 制限・注意事項一覧に「■旧バージョンのデータベースからアップグレードした場合」を追加
 - P.56 制限・注意事項一覧に「■タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」を追加
- 2024/06/27 改訂 製品のバージョンを e-Success-V6.2 に変更
- P.7 「◆注意◆ IIS の言語バージョンについて」を追加
 - P.10, 16 「◆注意◆ 導入先のフォルダを変更している場合」を追加
 - P.17 「◆ヒント◆ 「他システムデータの一括取込」の電子ファイルの保存場所の指定」を追加
 - P.20 「F. クライアントのアップデート機能の有効化 (オプション)」を追加
 - P.25 「G. アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定 (オプション)」を更新
 - P.36 「A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索する」の画像を更新
 - P.38, 42, 53, 61 「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」について」を追加
 - P.38 「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を追加
 - P.39 「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を追加
 - P.40, 44 「◆注意◆ 検証不備の PDF について」を追加
 - P.40 「◆注意◆ 「全拠点」所属のユーザーと「複数の拠点」所属のユーザーの違い」を追加
 - P.43 「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった場合」の内容を更新
 - P.59 「C. 他システムのデータを取り込む」の画面の画像を差し替え
 - P.61 「◆注意◆ タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」の内容を更新
 - P.62 「◆注意◆ 検証不備の PDF の取り込みについて」を追加
 - P.63 制限・注意事項一覧に「■検証結果が「△」と「×」について」
 - P.63 制限・注意事項一覧に「■タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」を更新
- 2024/11/01 改訂
- 製品のバージョンを e-Success-V6.3 に変更
 - P.54 「◆注意◆ 登録できない日付について」を追加
 - P.61 「◆注意◆ 明日以降の日付が記されている書類データを登録する場合」を追加
- 2025/02/03 改訂
- 製品のバージョンを e-Success-V6.4 に変更
 - P.55 「◆注意◆ 「書類番号」のスキップの発生について」を追加
- 2025/07/30 改訂
- P.64 「制限・注意事項一覧」に「■DocuWorks ファイルの表示」を更新
- 2026/05/11 改訂
- 製品のバージョンを e-Success-V6.5 に変更
 - P.4 Windows 10 のサポートが切れたため、Windows 10 に関する記述を削除
 - P.6 「A. Web サーバー (IIS) をインストールする」の画像のみを更新
 - P.43 「◆ヒント◆ XAdES-V2, XAdES-V3 の検証結果について」を追加
 - P.59 「◆ヒント◆ CSV ファイルのレイアウトについて」を追加
 - P.59 「◆ヒント◆ CSV ファイルの区切りについて」を追加
 - P.59 「◆ヒント◆ 項目名を必ず書いてください」を追加

- 2026/05/11 改訂
製品バージョンを e-Success-V6.5 に変更
- P.4 Windows 10 のサポートが切れたため、Windows 10 に関する記述を削除
- 2026/07/26 改訂
- P.41 「◆注意◆ Web ブラウザで表示可能なファイルについて」の「Docuworks」の解説を更新

本マニュアルの使い方

本マニュアルは「導入・設定編」、「書類作業編」の2部に分かれています。

「導入・設定編」

e-Success Web サービスを利用するためのインターネットインフォメーションサービス（IIS）の導入から、Web サイトの構築の方法について記載しています。

「書類作業編」

e-Success Web サービスによる書類の検索・表示や他システムデータの一括取込の機能について記載しています。

システムの環境

■インストールに必要な環境（サーバー）

e-Success Web サービスのインストールには、次の環境が必要です。

項目	内容
対応 OS	Windows Server 2019/2022/2025（64ビット） ※いずれも日本語版 ※Windows Server 2019のメインストリームサポートは2024年1月9日に終了しました。延長サポートは2029年1月9日に終了します。
CPU	x64 プロセッサ 1.4GHz 以上
必要メモリ容量	2GB 以上 ※インスタンス同じサーバーに入れず、IISを稼働させたうえでWebアプリケーションのみを動かした場合。
ハードディスク	空き容量500MB 以上 （上記の他に、Webサーバーのログの領域、他システムデータの一括取込で使用する電子ファイルの保存フォルダの領域が必要）

◆注意◆ e-Success データベースサーバーにWebサービスをインストールする場合

e-Success データベースを構築したサーバーマシンへの、e-Success Web サービスのインストールもできます。その場合の必要なサーバー環境については、「e-Success-V6.2 導入・運用マニュアル」の「システムの環境と機能表」にある「**■インストールに必要な環境（サーバー）**」を参照してください。

■動作に必要な環境（クライアント）

e-Success Web サービスを利用するには、次の環境が必要です。

項目	内容
対応 OS	Windows® 11（64ビット） 日本語版
CPU	インテル® Core™ i3 以上のプロセッサ
必要メモリ容量	6.0 GB 以上（8.0 GB 以上を推奨）
ディスプレイ解像度	1280×768 ドット以上
Web ブラウザ	Edge、Chrome、Firefox など ※Cookieを利用できる設定にしてください。
その他	Adobe Acrobat または Adobe Reader DocuWorks（電子ファイルとして DocuWorks ファイル（xdw）を使用する場合）※

※ DocuWorks は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の商標または登録商標です。

※ Docuworks をブラウザ上のビューアーで表示したい場合は、「2. 書類検索・検証・表示」の「B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示する」の「◆注意◆ Web ブラウザで表示可能なファイルについて」を参照してください。

◆導入・設定編◆

e-Success Web サービスの利用に必要な、IIS の導入から Web サイトの構築の手順について解説します。

1. Web サイトの構築

◆注意◆ IIS の言語バージョンについて

e-Success の全 Web アプリケーションは、日本語版のみの対応となります。そのため、IIS の言語バージョンも日本語版である必要があります。Windows の日本語版がインストールされていれば、基本的には IIS も日本語版でインストールされますが、構築作業を行う前に先にインストールする言語を確認してください。

◆ヒント◆ e-Success Web サービスの導入先のサーバー

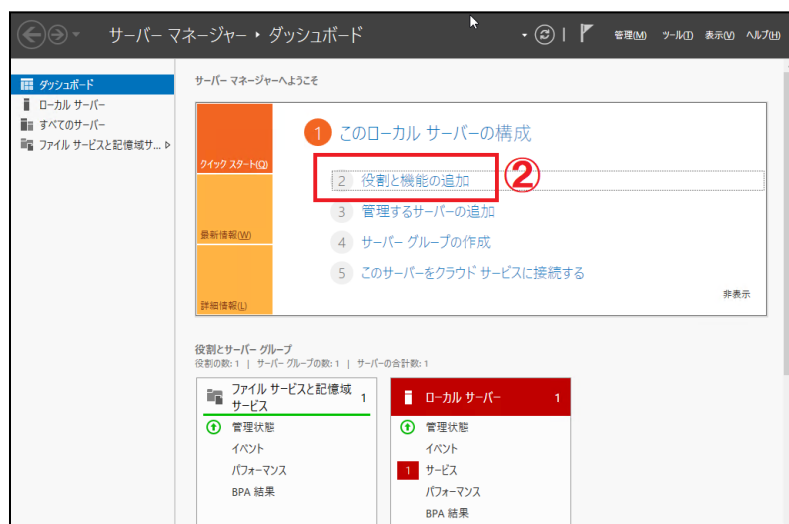
e-Success Web サービスは、ネットワーク内に別の Web サーバーを用意してご利用頂きます。e-Success Web サービスは、e-Success データベースサーバーに導入することもできます。

A. Web サーバー（IIS）をインストールする

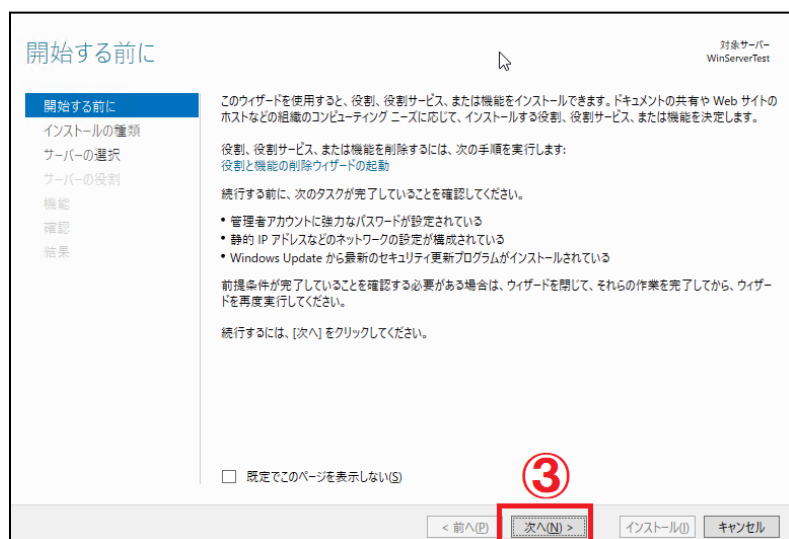
e-Success Web サービスは、Windows 標準の Web サーバーであるインターネットインフォメーションサービス（以降、IIS と表記）を使用します。次の手順で、IIS を導入してください。

① クイック起動ツールバーの「サービーマネージャー」ボタンをクリックします。

② [役割と機能の追加] をクリックします。



③ 「役割と機能の追加ウィザード」が起動して「開始する前に」ページが表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。



④「インストールの種類」ページで、[役割ベースまたは機能ベースのインストール] を選択して⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

⑤「対象サーバーの選択」ページで、[サーバープールからサーバーを選択] を選択して⁽⁻¹⁾、[サーバープール] リストボックスで対象のサーバーを選択し⁽⁻²⁾、[次へ] ボタンをクリック⁽⁻³⁾ します。

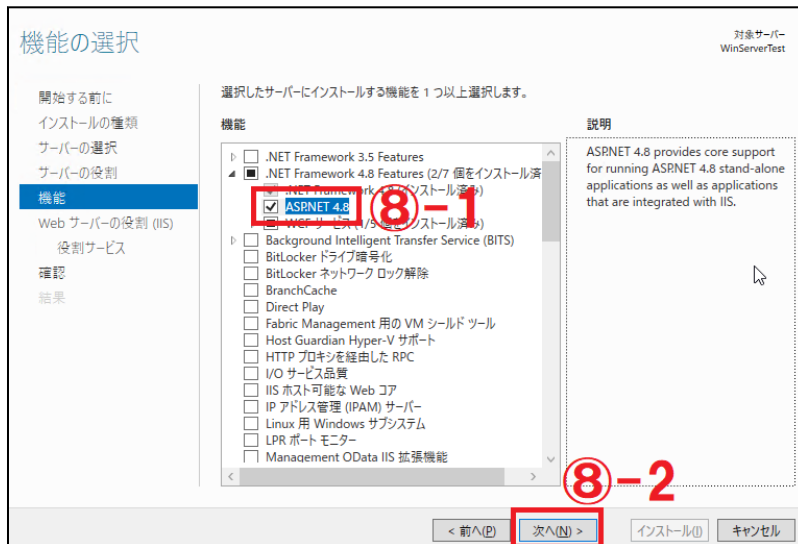
⑥「サーバーの役割の選択」ページで、[Web サーバー (IIS)] のチェックボックスをオンにします⁽¹⁾。チェックボックスをオンにすると機能の追加確認画面が表示されるので、[機能の追加] ボタンをクリックします⁽²⁾。

- ⑦「サーバーの役割の選択」ページで「次へ」ボタンをクリックします。
- ⑧「機能の選択」ページで、[.NET Framework 4.8 Features] を展開して、[ASP.NET 4.8] チェックボックスをオンにします⁽⁻¹⁾。設定後、「次へ」ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

◆注意◆ インストールする .NET Framework のバージョン番号について

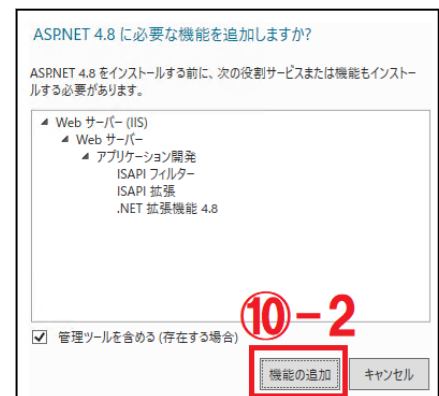
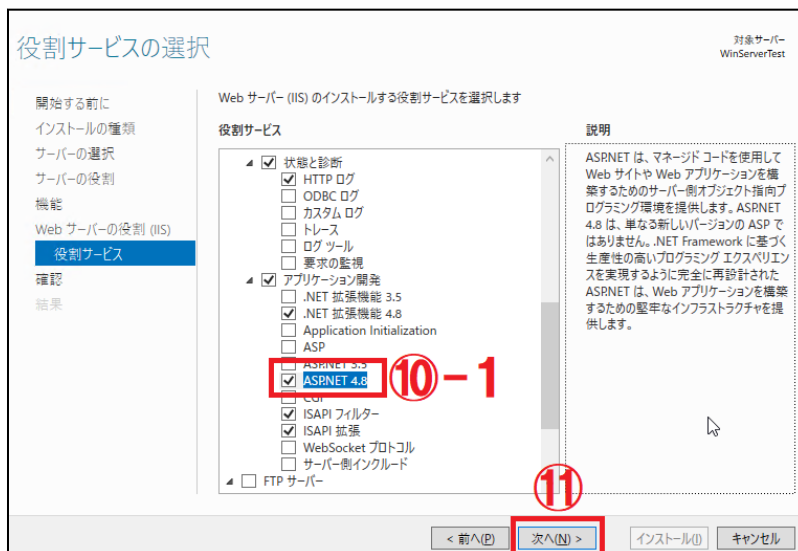
Windows Update や Windows のマシンの購入時期によっては、「.NET Framework 4.0 Features」といった古いバージョンから「.NET Framework 4.8 Features」と最新の「4.8」バージョンと、用意されている「4.0」系統のバージョンが異なります。e-Success の Web 検索機能およびリンクビューは、「.NET Framework」の「4.0」以降のバージョンであれば動作しますので、そちらをインストールしてください。

※なお、「.NET Framework 2.0 Features」「.NET Framework 3.5 Features」では、動作しませんので「.NET Framework 4.0 Features」以降のバージョンを必ずインストールしてください。



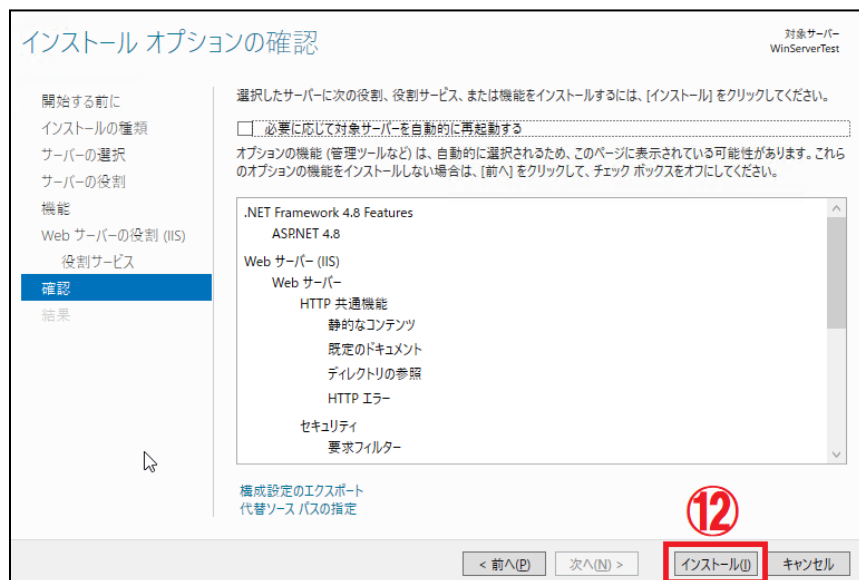
- ⑨「Web サーバーの役割 (IIS)」ページで「次へ」ボタンをクリックします。

- ⑩「役割サービスの選択」ページで、[Web サーバー]—[アプリケーション開発] を展開して、[ASP.NET 4.5] チェックボックスをオンにします⁽⁻¹⁾。チェックボックスをオンにすると機能の追加確認画面が表示されるので、「機能の追加」ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。



- ⑪「役割サービスの選択」ページで「次へ」ボタンをクリックします。

⑫ 「インストールオプションの確認」 ページで [インストール] ボタンをクリックします。



⑬ Web サーバー (IIS) と ASP.NET4.5 のインストールが開始されます。インストールが完了すると「結果」ページが表示されるので、[閉じる] ボタンをクリックして、役割と機能の追加ウィザードを閉じてください。

以上で、Web サーバー (IIS) のインストールは完了です。

◆ヒント◆ Windows ファイアウォールの設定

本書の手順通りに Web サーバー (IIS) をインストールした場合、Windows ファイアウォールに HTTP (TCP ポート 80) と HTTPS (TCP ポート 443) の通信を許可する設定が追加されます。

B. e-Success Web サービスを準備する

e-Success Web サービスの準備として、プログラムをフォルダにコピーして、フォルダの権限を設定します。

① e-Success のインストールメディアをセットして、Visual C++再頒布可能パッケージをインストールします。

② Windows エクスプローラでインストールメディアを開き、[e-SuccessWeb サービス] フォルダの [vcredist_x86] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [vcredist_x86.exe]) をダブルクリックします。

画面に表示される手順にしたがってインストールを実行してください。なお、既にコンピュータに Visual C++再頒布可能パッケージがインストールされている場合は、インストールをキャンセルしてください。

③ e-Success のインストールメディアを開き、[e-SuccessWeb サービス] フォルダに含まれている [esuccess] フォルダと [esuccesslinkview] フォルダを C:\inetpub\wwwroot フォルダにコピーします。

◆注意◆ 導入先のフォルダを変更している場合

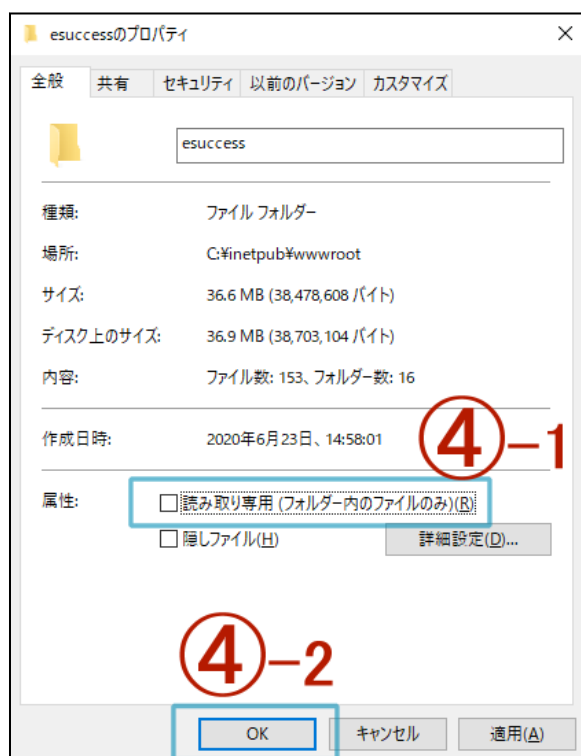
e-Success Web アプリケーション は、別の導入先のフォルダへのインストールもできます。ただし、本マニュアルおよび Web アプリケーションの既定の設定では、C:\inetpub\wwwroot フォルダに導入することを前提としています。これは、IIS の Default Web Site の初期の既定のルートパスが、C:\inetpub\wwwroot¥になっているからです。

もし別のフォルダへインストールした場合は、インストール先の [esuccess] および [esuccesslinkview] フォルダにある「Web」(拡張子が表示されているコンピュータの場合には「Web.config」) をメモ帳などで編集して、次のエントリのパスを実際のインストール先のパスに**必ず**修正してください。

```
<!-- 独自ストアのパス -->
<add key="STORE_FOLDER" value="C:\inetpub\esuccess¥App_Data¥store" />
<!-- trusts のパス -->
<add key="TRUSTS_FOLDER" value="C:\inetpub\esuccess¥App_Data¥store¥trusts" />
```

④ コピー先の [esuccess] フォルダを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。プロパティ表示の「全般」で、「属性」の「読み取り専用」チェックボックスをオフにして、[OK] ボタンをクリックします。

属性変更の確認画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックしてください。



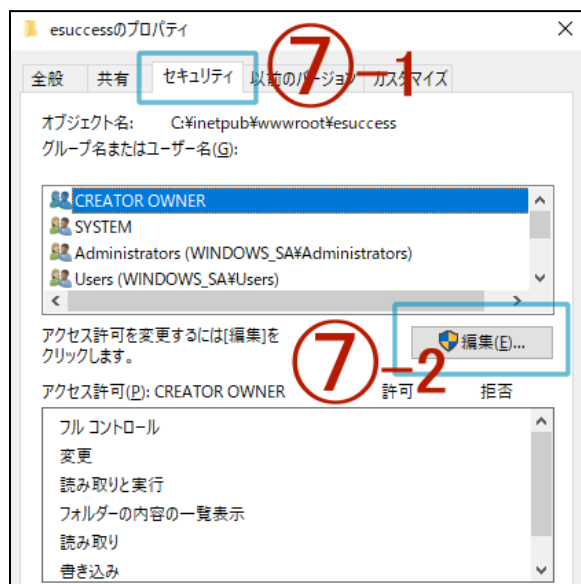
⑤ [esuccesslinkview] フォルダについても④と同様の手順で、読み取り専用を解除します。

⑥ e-Success アプリケーションのインストールフォルダにある「e-SuccessCSSetting」(拡張子が表示されているコンピュータの場合は「e-SuccessCSSetting.xml」) を [e-success] フォルダと [e-successlinkview] フォルダにコピーします。

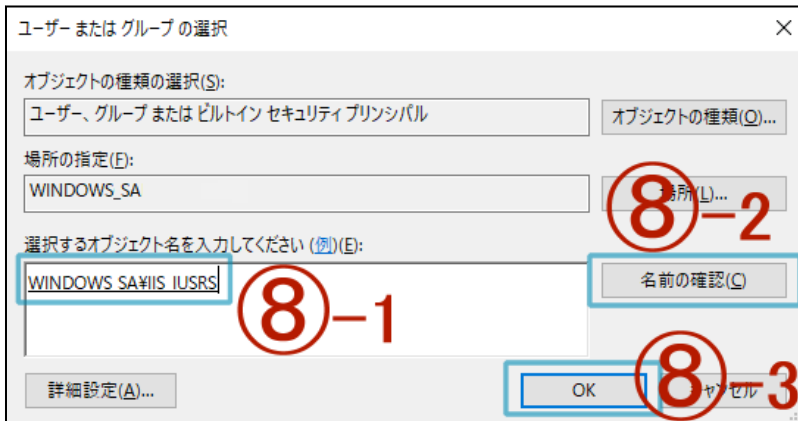
◆ヒント◆ e-SuccessCSSetting.xml

e-SuccessCSSetting.xml は、製品に付属している e-Success 接続先設定ツールで作成できます。
e-Success 接続先設定ツールについては、「e-Success-V6.0 導入・運用マニュアル」の導入・設定編「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を参照してください。

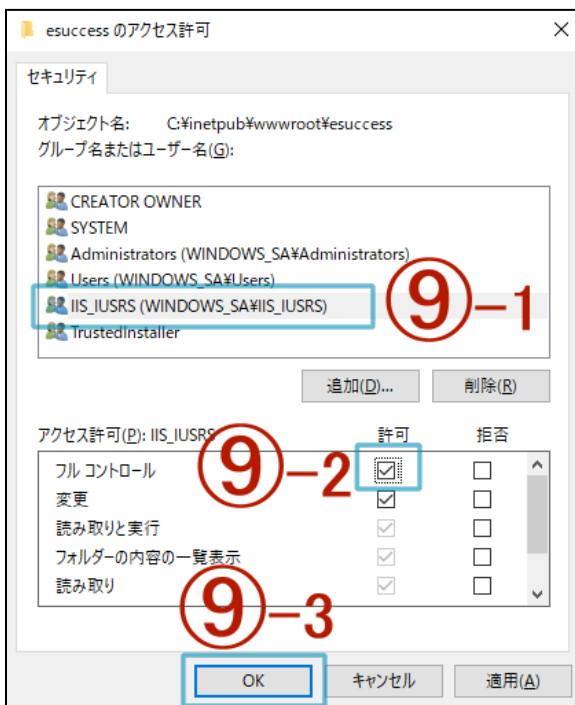
⑦ [esuccess] フォルダ内の [App_Data] フォルダを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。プロパティ表示の「セキュリティ」タブをクリックして、[編集] ボタンをクリックすると [App_Data のアクセス許可] ダイアログボックスが表示されます。



⑧ [App_Data のアクセス許可] ダイアログボックスで [追加] ボタンをクリックして、[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログボックスを表示します。[選択するオブジェクト名を入力してください] ボックスに **IIS_IUSRS** と入力して、[名前の確認] ボタンをクリックします。「サーバー名*IIS_IUSRS」と下線付きで表示されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックします。



⑨ [グループ名またはユーザー名] の一覧で [IIS_IUSRS] を選択して、[フルコントロール] の [許可] チェックボックスをオンにし、[OK] ボタンを2回クリックして、アクセス許可とプロパティのダイアログボックスを閉じます。



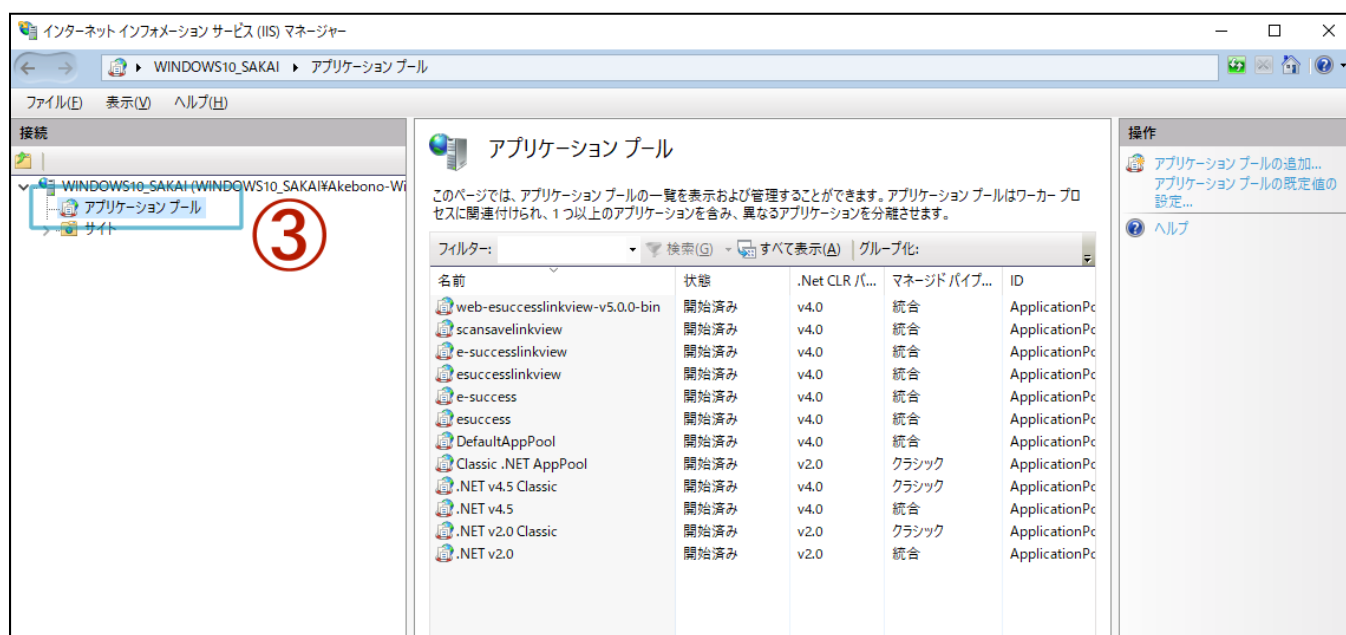
⑩ [esuccesslinkview] フォルダについても手順⑦～⑧と同様の手順で、[App_data] フォルダに IIS_IUSRS グループのフルコントロールの権限を設定します。

以上で、e-Success Web サービスの構築準備が整いました。

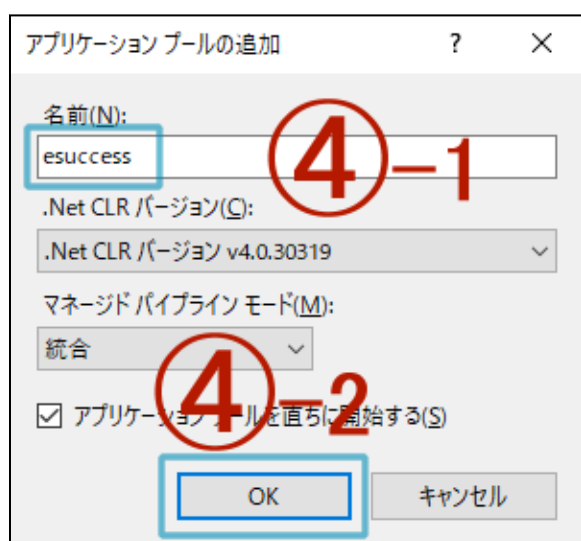
C. e-Success Web サービスを構築する

インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー (以降、IIS マネージャーと表記) を使用して、Web サイトを構築し、アプリケーションプールの設定を行います。

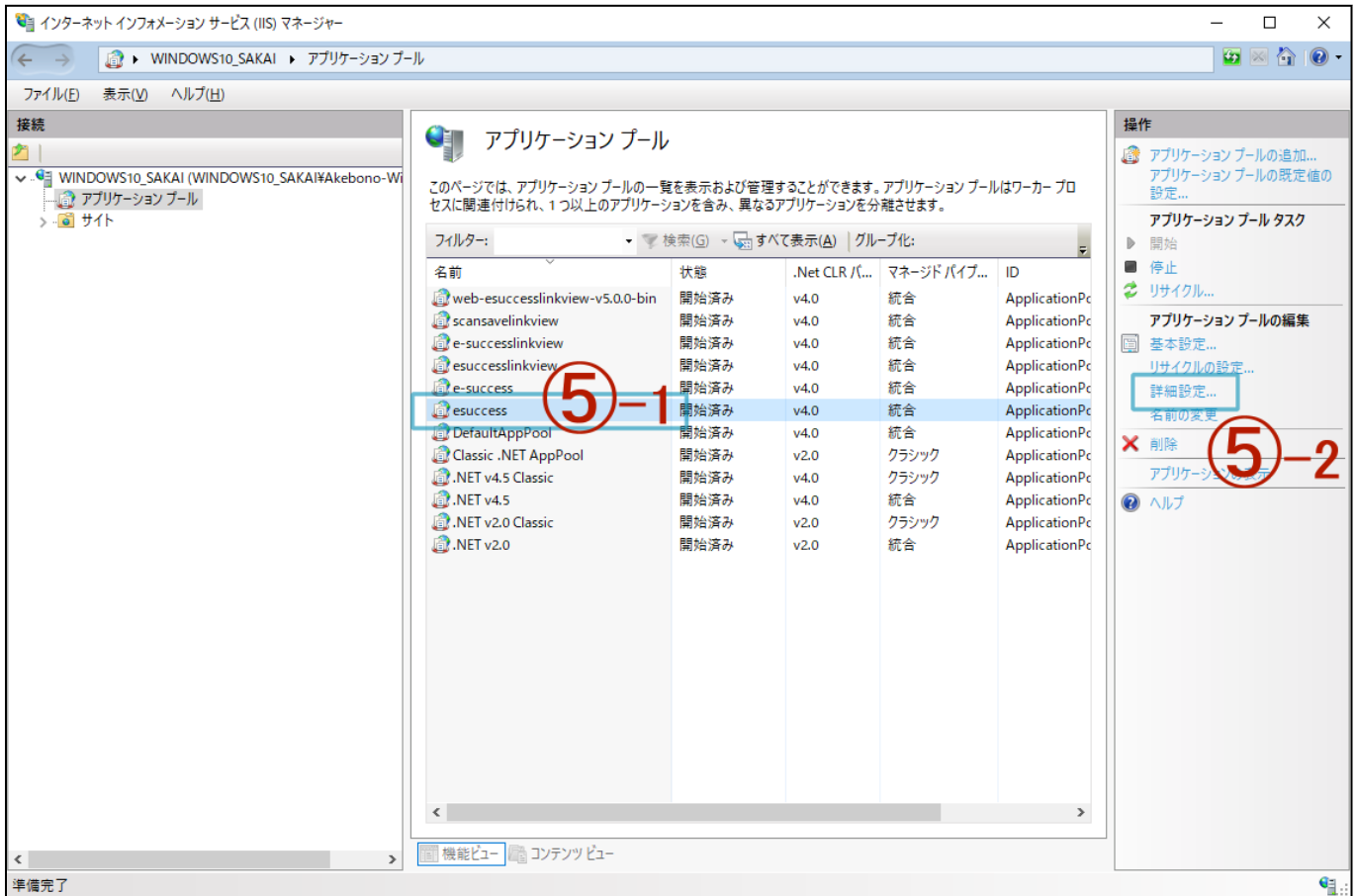
- ① サーバーマネージャーの右上にある「ツール」メニューから「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」をクリックします。
- ② 左側の「接続」ペインでサーバーを展開します。Microsoft Web Platform の使用を開始するかどうかの確認画面が表示された場合には、「いいえ」ボタンをクリックしてください。
- ③ 「アプリケーションプール」を右クリックして表示されるメニューから「アプリケーションプールの追加」をクリックします。



- ④ 「名前」ボックスに **esuccess** と入力して⁽⁻¹⁾、[OK] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。アプリケーションプールの一覧に「esuccess」が登録されます。



- ⑤ アプリケーションプールの一覧で [esuccess] を選択して⁽⁻¹⁾、右側の [操作] ペインで [詳細設定] をクリックします⁽⁻²⁾。

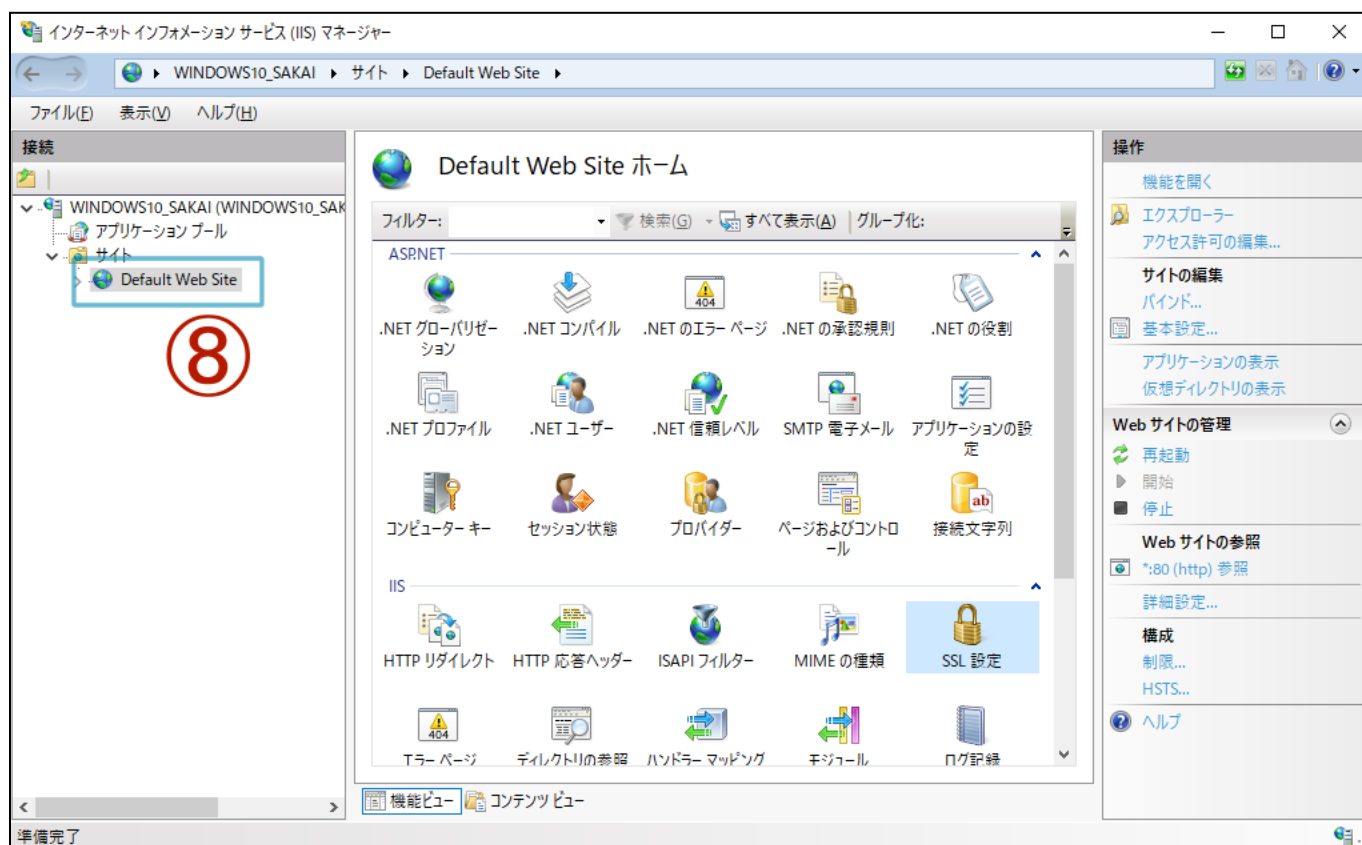


- ⑥ [詳細設定] ダイアログボックスで [32 ビットアプリケーションの有効化] を [True] に変更して⁽⁻¹⁾、[OK] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

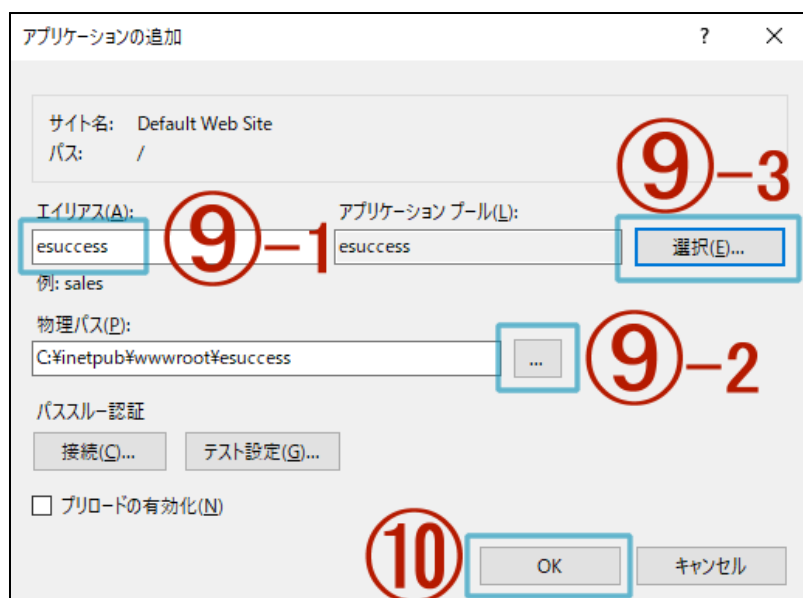


- ⑦ ③～⑥と同じ手順で、「esuccesslinkview」をアプリケーションプールに追加します。

⑧ 左側の操作ペインで「[サイト]」を展開し「[Default Web Site]」を右クリックして表示されるメニューから「[アプリケーションの追加]」をクリックします。



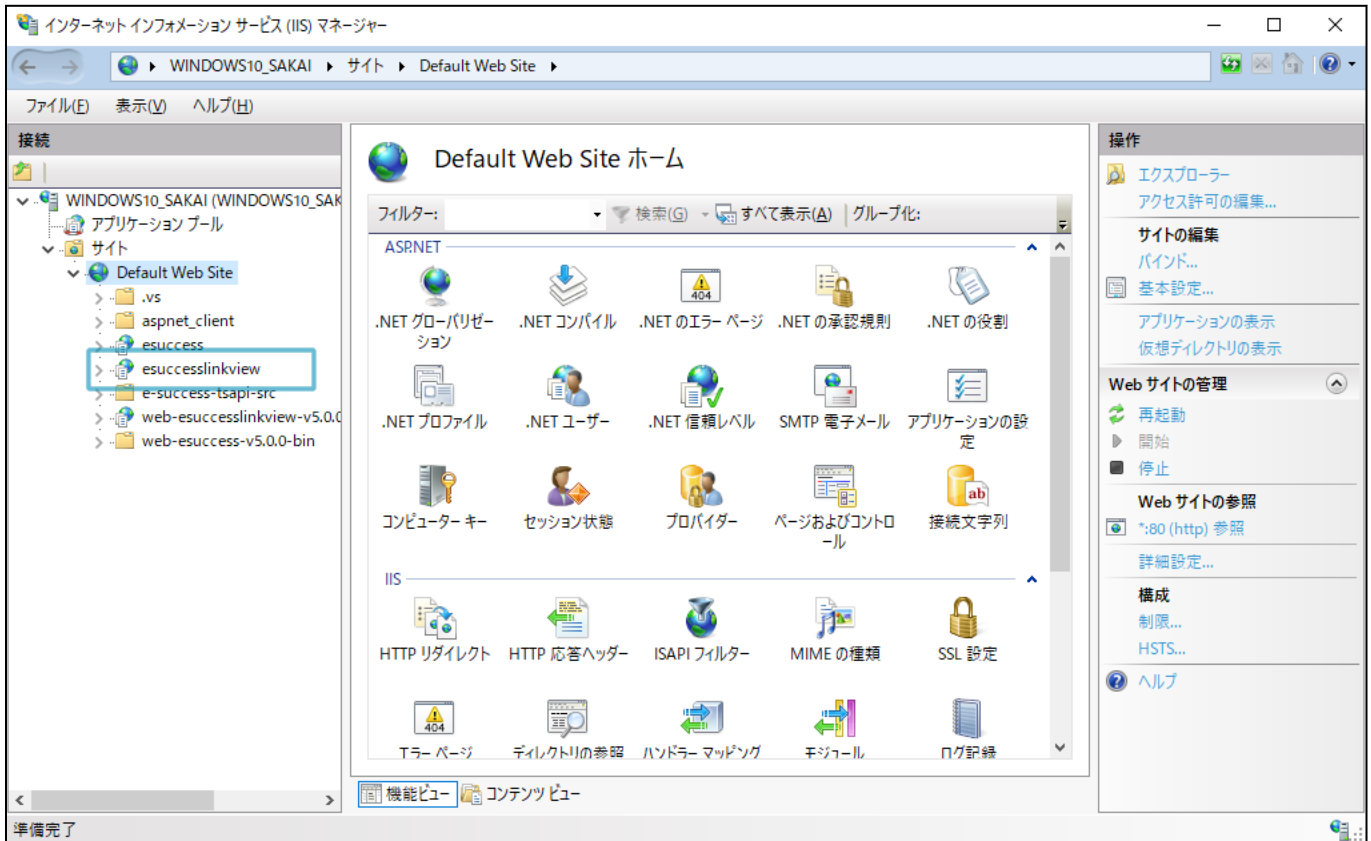
⑨ 「[エイリアス]」の入力欄に **esuccess** と入力して⁽⁻¹⁾、[物理パス] 入力欄の右にある [...] ボタンをクリックし、「B.e-Success Web サービスを準備する」の手順③でコピーしたフォルダ（既定では C:\inetpub\wwwroot\esuccess フォルダ）を指定します⁽⁻²⁾。また、[アプリケーションプール] 表示右の [選択] ボタンをクリックして、アプリケーションプールを「esuccess」に変更します⁽⁻³⁾。



◆注意◆ エイリアスの名称
エイリアスは必ず小文字で入力してください。

⑩ 「[アプリケーションの追加]」ダイアログボックスで「[OK]」ボタンをクリックします。IIS マネージャーの「[サイト]」-「[Default Web Site]」を右クリックして、ショートカットメニューから「[最新の情報に更新]」をクリックすると、e-Success アプリケーション（エイリアス：esuccess）が登録されていることが確認できます。

⑪ ⑧～⑩と同じ手順で、e-SuccessLinkView アプリケーションを登録してください（エイリアスとアプリケーションプール：esuccesslinkview）。



以上で、e-Success Web サービスの構築が完了しました。

◆注意◆ **エイリアスの名称**

エイリアスは必ず小文字で入力してください。

◆注意◆ **Docuworks ファイルの閲覧機能のバージョン指定**

「Docuworks」もしくは「Docuworks Viewer Light」は、バージョンによって MIME タイプが異なります。そのため、Internet Explorer 利用して Docuworks ファイルを表示したいときは、先に Web.config の「DOCUWORKS_VER」属性の「value」で Docuworks のバージョンを指定してください。

```
<!-- Docuworks のバージョン設定 -->
<add key="DOCUWORKS_VER" value="9" />
```

value に入れる、バージョン番号

8 以下の場合： 8

9 以上の場合： 9

※Internet Explorer のサポートは、2022年6月16日に終了しております。Microsoft Edge のIEモードは、2029年で終了予定です。

◆注意◆ **導入先のフォルダを変更している場合**

e-Success Web アプリケーション は、別の導入先のフォルダへのインストールもできます。

ただし、本マニュアルおよびWeb アプリケーションの既定の設定では、C:\inetpub\wwwroot フォルダに導入することを前提としています。

これは、IIS のDefault Web Site の初期の既定のルートパスが、C:\inetpub\wwwroot¥ になっているからです。

もし別のフォルダへインストールした場合は、インストール先の [esuccess] および [esuccesslinkview] フォルダにある「Web」（拡張子が表示されているコンピュータの場合には「Web.config」）をメモ帳などで編集して、次のエントリのパスを実際のインストール先のパスに**必ず**修正してください。

```
<!-- 独自ストアのパス -->
<add key="STORE_FOLDER" value="C:\inetpub\esuccess¥App_Data¥store" />
<!-- trusts のパス -->
<add key="TRUSTS_FOLDER" value="C:\inetpub\esuccess¥App_Data¥store¥trusts" />
```

◆ヒント◆ セッションのタイムアウト

既定の設定では、20分でセッションがタイムアウトするように設定されています。タイムアウトの時間を変更したい場合は、IIS マネージャーで e-Success アプリケーションまたは e-SuccessLinkView アプリケーションのセッション状態で「Cookie の設定」の「タイムアウト」入力欄の時間を変更してください。

◆ヒント◆ HTTPS プロトコルでの接続

インターネット上にサーバーを設置する場合や、イントラネット内におけるセキュリティを強化したい場合は、HTTPS プロトコルでも使用してください。HTTPS プロトコルを使用する場合は、サーバー証明書を導入し、各アプリケーションの SSL 設定を変更してください。インターネット上に設置する場合は、必ず HTTPS プロトコルを使用してください。

◆ヒント◆ 「他システムデータの一括取込」の電子ファイルの保存場所の指定

Web 検索機能の「他システムデータの一括取込」を利用する場合、インストール先の [esuccess]「Web」(拡張子が表示されているコンピュータの場合には「Web.config」)をメモ帳などで電子ファイルの保存フォルダを指定し、IIS_IUSRS の書き込み権限を付与する必要があります。

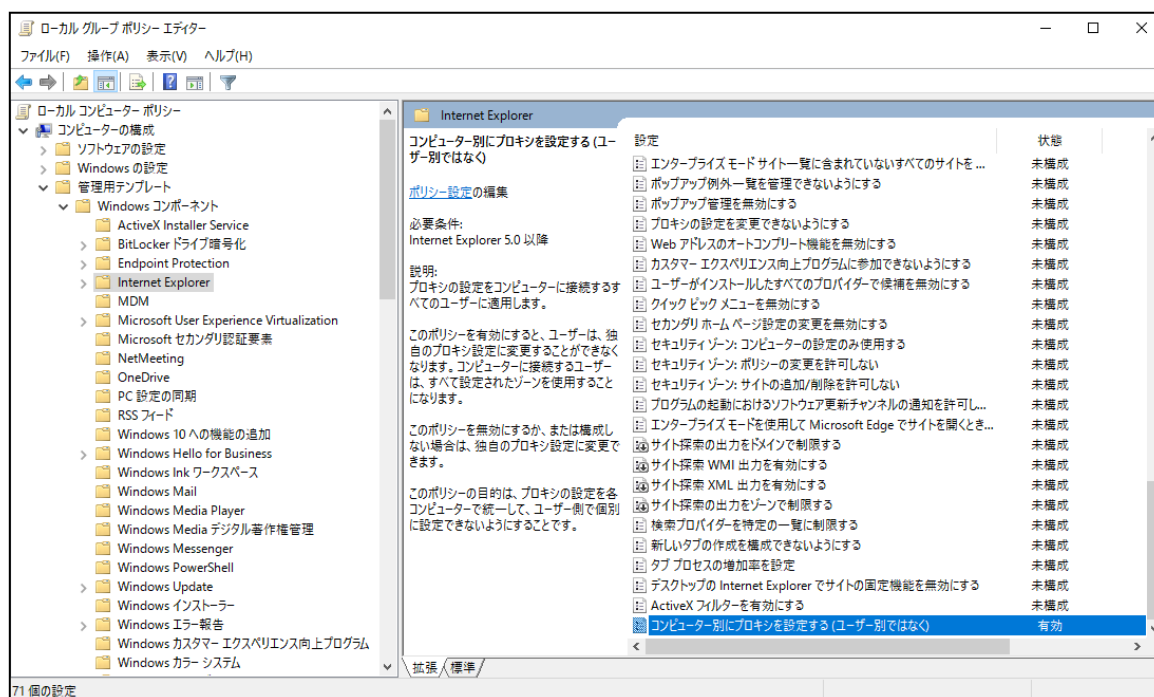
他システムデータの一括取込で使用するフォルダを変更する場合は、次のエントリのパスを修正してください。

```
<!-- 「他システムデータの一括取込」の電子ファイルの場所 -->
<add key="BULKIMPORT_FOLDER" value="C:\¥e-SuccessImport" />
```

◆ヒント◆ プロキシサーバーの利用

e-Success Web サービスでは、タイムスタンプの検証のためにインターネット接続を必要とします。インターネット接続にプロキシサーバーを利用している場合は、次のように操作して、プロキシサーバーの設定をユーザー別ではなくコンピュータ全体で共通にプロキシが設定されるように変更してください。

- ① スタートメニューの右にある「Windows の検索」をクリックして、「gpedit.msc」を検索して実行します。
- ② ローカルグループポリシーエディタが起動するので、左側のペインで「コンピュータの構成」-「管理用テンプレート」-「Windows コンポーネント」と展開して「Internet Explorer」を選択します。
- ③ 右側のペインで「コンピューター別にプロキシを設定する（ユーザー別ではなく）」をダブルクリックして、状態を「有効」に設定します。

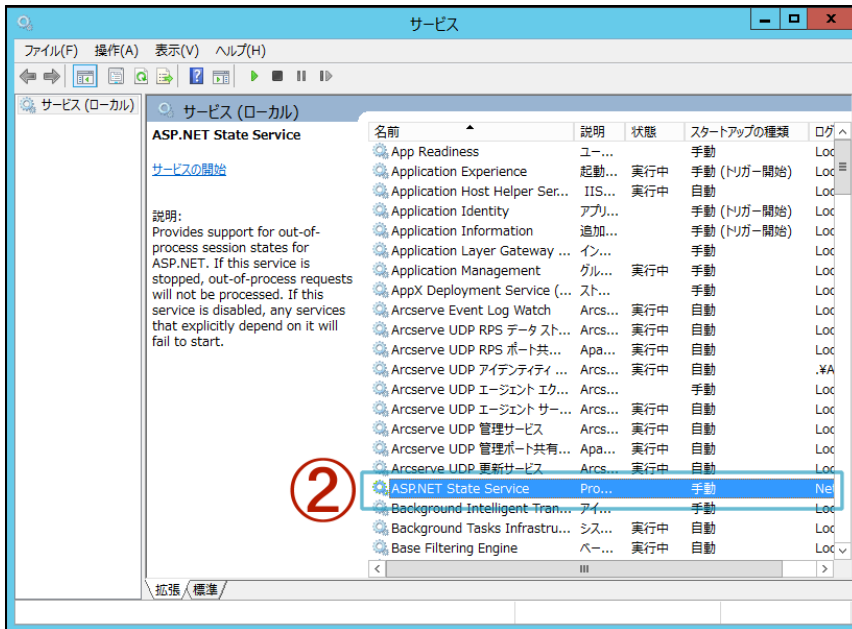


この設定が完了したら、Internet Explorer からプロキシサーバーを設定してください。

D. ASP.NET 状態サーバーを実行する

e-Success Web サービスでは、セッションの管理に ASP.NET 状態サーバーを利用します。次の手順で、ASP.NET 状態サーバーを設定してください。

- ① サーバーマネージャーの右上にある [ツール] メニューから [サービス] をクリックします。
- ② サービスの管理画面が起動するので、一覧で [ASP.NET State Service] の行をダブルクリックします。



- ③ [ASP.NET State Service のプロパティ] ダイアログボックスで、[スタートアップの種類] の枠内をクリックすると表示されるリストで「自動」を選択し⁽⁻¹⁾、[開始] ボタンをクリックします⁽⁻¹⁾。サービスの状態が「実行中」になったら、[OK] ボタンをクリックして⁽⁻³⁾、ダイアログボックスを閉じてください。



サービスの状態が「実行中」になったら、[OK] ボタンをクリックしてください。

◆ヒント◆ スタートアップの種類

スタートアップの種類を「自動」に設定することで、サーバーの再起動時に ASP.NET 状態サーバーが自動的に起動します。

- ④ サービスの管理画面の一覧で、[ASP.NET State Service] の状態が「実行中」になり、スタートアップの種類が「自動」になっていることを確認して、サービスの管理画面を閉じてください。

以上で、ASP.NET 状態サーバーの設定が完了です。

E. e-Success Web サービスの動作を検証する

e-Success Web サービスの導入が完了したら、当マニュアルの「書類作業編」を参照して、Web サイトの表示、e-Success Web サービスへのログイン、ファイルの表示とタイムスタンプの検証の確認を行ってください。

e-Success Web サービスが正常に動作しない場合は、次の点を確認してください。

・ URL アドレスを指定してもログイン画面が表示されないとき

→Web サーバーの Web ブラウザで、`http://localhost/esuccess/` でログイン画面が表示できることを確認してください。ログイン画面が表示されない場合は、Web サイトが正しく構築できていない可能性があります。当マニュアルの導入手順を再確認してください。

ログイン画面が表示された場合は、ネットワーク障害の可能性があります。なお、サーバーのファイアウォール設定で、対象のポートが塞がれていないことも確認してください（HTTP の場合 TCP ポート 80、HTTPS の場合 TCP ポート 443）。

・ ログイン画面で【接続先】ドロップダウンリストに何も表示されないとき

→e-SuccessCSSetting.xml ファイルが Web サイトのフォルダにコピーされていない可能性があります。「B. e-Success Web サービスを準備する」を参照して、e-SuccessCSSetting.xml ファイルをコピーしてください。

・ e-Success Web サービスにログインできないとき

→ユーザーアカウントは、e-Success アプリケーションと共通になっています。あらかじめ、e-Success アプリケーションでユーザーを登録してからご利用ください。また、システム管理者ではログインできない点に注意してください。

・ ファイルに対するタイムスタンプの検証が動作しないとき

→セキュリティ証明書のフォルダのパスが間違っている可能性があります。「C. e-Success Web サービスを構築する」のヒントを参照して、Web.config のエントリを修正してください。なお、タイムスタンプ検証作業は Web サーバーが実行するため、Web サーバーが常にインターネットに接続されている必要があります。インターネットの接続にプロキシサーバーを使用している場合は、「C. e-Success Web サービスを構築する」のヒントを参照して、プロキシサーバーの設定を行ってください。

・ ファイルが正しくプレビューできないとき

→Web サーバー上でデータベースからファイルを復元できていない可能性があります。「B. e-Success Web サービスを準備する」を参照して、フォルダの権限を確認してください。

◆ヒント◆ e-Success アプリケーションのデータベースメンテナンス機能

「e-Success-V6」の Web 検索機能とリンクビューの導入は、旧バージョンである「ScanSave-V3 ネットワーク接続版」「ScanSave-V4」「e-Success-V5」で Web 検索機能とリンクビューの導入と同じ工程になります。旧バージョンからアップグレードされる場合は、下記の工程を実施してください。

※ 過去のバージョンから e-Success-V6 のアップグレードを行う前に、「e-Success-V6.0_Standard/Pro 導入・運用マニュアル.pdf」の導入・設定編の「3. e-Success データベースの構築」の「C. 旧バージョンのデータベースを e-Success データベースに移行する」の工程を実施し、旧バージョンのデータベースを必ずアップグレードしてから下記のアップグレード工程を行ってください

- ① ファイルの上書きは行わず、本稿の導入・設定編の「1. Web サイトの構築」を順に工程踏んで構築してください。
- ② 構築完了後、「ScanSaveCSSetting.xml」を新たに構築した e-Success の Web 検索機能とリンクビューにコピーしてください。
- ③ Web 検索機能とリンクビューにコピーした各「ScanSaveCSSetting.xml」のファイル名を「e-SuccessCSSetting.xml」に変更してください
- ④ 最後に Web 検索機能とリンクビューが無事に動作するか確認してください。確認完了後、もし旧バージョンの Web 検索機能とリンクビューが不要であれば、削除してください。

F. クライアントのアップデート機能の有効化 (オプション)

ここでは、クライアント (e-Success.exe) 上で e-Success をアップデートする機能を有効化する方法について説明します。

本機能は、クライアントが 指定の Web サーバーにアクセスして、e-Success の最新版が置いてあるか確認し、現在ユーザーが使用されているアプリケーションよりも新しいアプリケーションが見つかった場合、インストーラーをダウンロードしてアップデートするような仕組みになっています。

◆注意◆ Web サーバーの構築

本機能は、Web サービス・Web サイト・クライアントを組み合わせた機能になります。
本機能を有効化するに当たり、クライアントのインストールをあらかじめ済ませてください。

◆注意◆ 必要なファイル

本機能を使用するには、下記のファイルが必要です。下記のファイルと同じディレクトリの階層に置いてください

- ・ e-SuccessVersion.xml (バージョンを確認するための XML ファイル)
- ・ e-Success_Setup.exe (インストーラー)

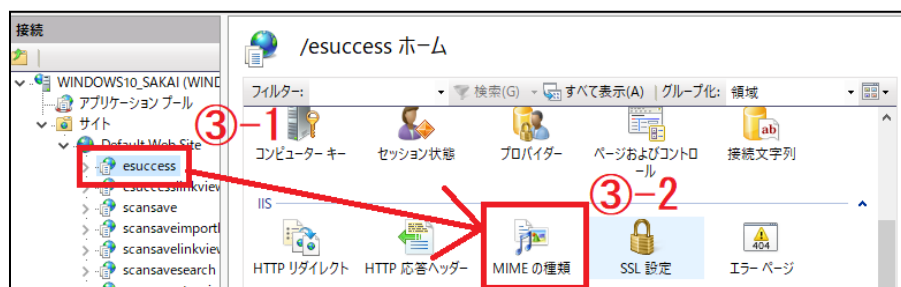
XML ファイルは、セットアップファイルの「e-SuccessWeb サービス」の「esuccess」の「version」の中に入っております。
※確認先は、「esuccess」の「version」フォルダを中身ごとそのまま使用していただくことを推奨しております。

インストーラーは、セットアップファイルの「SETUP」内に入っております。

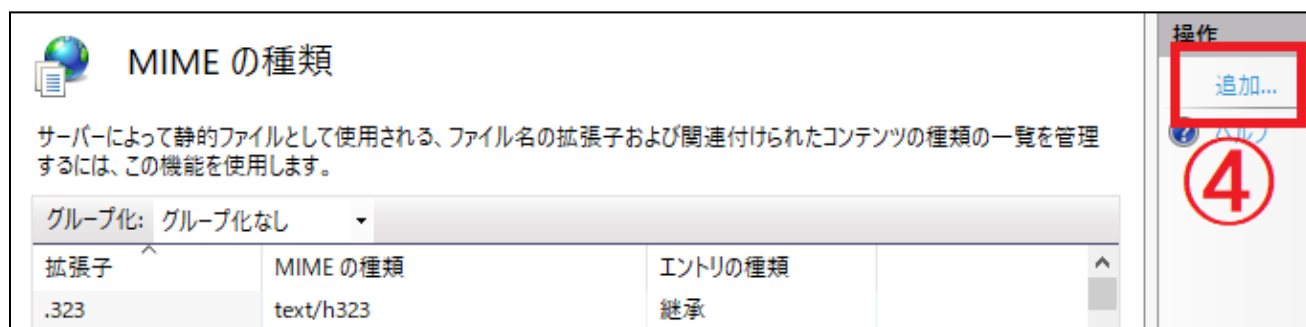
① 初めにサーバーマシン上で、Web サイト上で「.xml」ファイルが取得・表示できるように MIME を追加します。サーバーマネージャーの右上にある [ツール] メニューから [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー] をクリックします。

② 左側の [接続] ペインでサーバーを展開します。Microsoft Web Platform の使用を開始するかどうかの確認画面が表示された場合には、[いいえ] ボタンをクリックしてください。

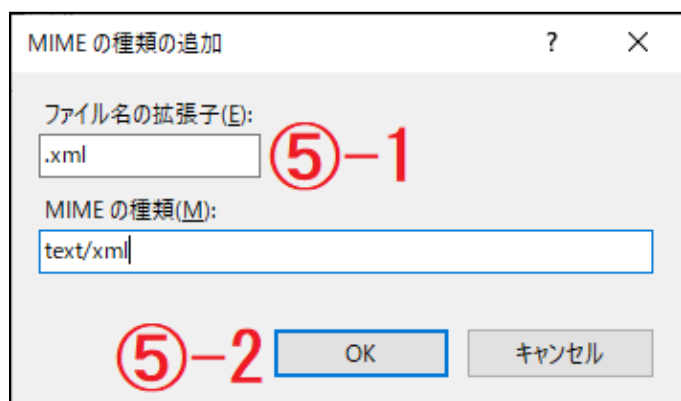
③ [サイト] の [Default Web Site] をプルダウンし、[esuccess] を左クリックします。その後、真ん中ウィンドウ表示される「/esuccess ホーム」から、「MIME の種類」をダブルクリックします。



④ 右側の [操作] ペインより、「追加」をクリックします。



⑤ [ファイル名の拡張子] に「.xml」と入力し、[MIMEの種類] に「text/xml」と入力します。入力が完了したら [OK] をクリックします。



⑥ 「MIMEの種類」に「.xml」を追加されたことを確認します。確認できた場合、これでWebサイト上に「.XML」ファイルの取得・表示が有効化されます。

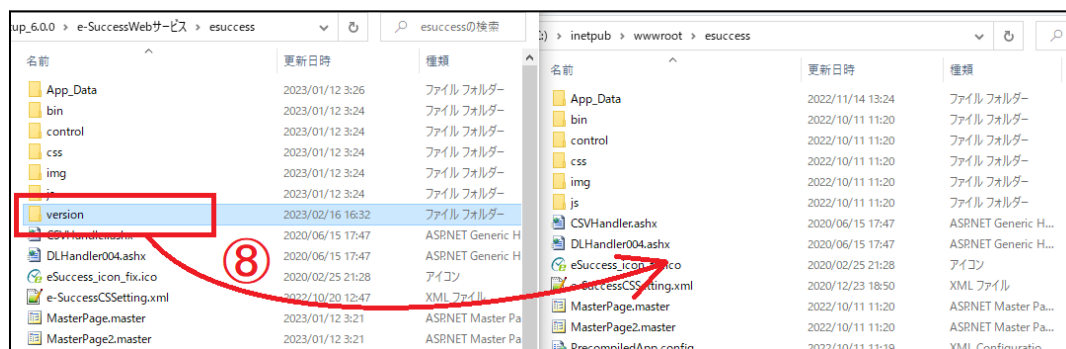


⑦ 次にサーバーマシン上で、バージョンを確認するためXMLファイルと最新版のインストーラーを配置します。

※現在の e-Success-V6 の最新版は、現行の V6.5.0 が最新版となるため、今回はこちらを使用して説明します。インストールメディアからセットアップファイル開き、「e-SuccessWeb サービス」の「esuccess」を開きます。

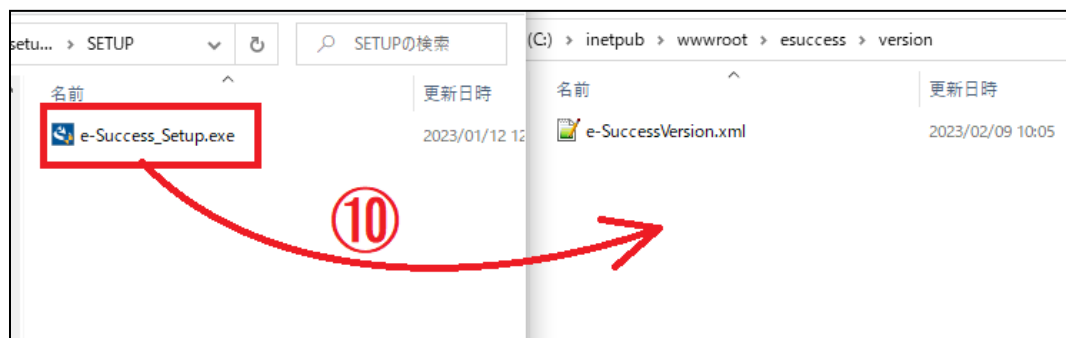
⑧ 「esuccess」フォルダ内にある「version」フォルダを右クリックでコピーし、構築したWebサービス「esucces」のフォルダを開いて、右クリックで「貼り付け」します。

なお、「version」フォルダが構築したWebサービス上の「esuccess」フォルダの中であって、バージョンが既に最新版の場合は、次の⑨の工程に進んでください。



⑨ インストールメディアからセットアップファイル開き、「SETUP」フォルダを開き、インストーラー「e-Success_Setup.exe」があることを確認します。

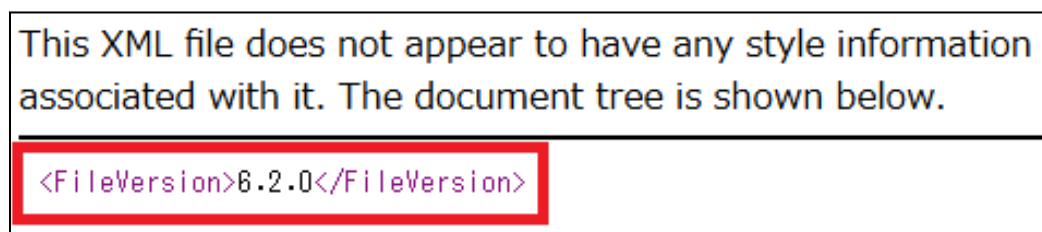
⑩ ⑧でコピーしたWebサービス「esuccess」の「version」のフォルダを開き、⑨の「SETUP」フォルダのインストーラー「e-Success_Setup.exe」を「version」にコピーします。



⑪ Web ブラウザを起動し、①～⑩の工程で設定したアプリケーションバージョンの確認先「…/esuccess/version/e-SuccessVersion.xml」が問題なく開くか確認します。XMLが表示されることを確認できたら、サーバーマシン・Webサーバーでの設定はこれで完了です

これまでの「**1. Webサイトの構築**」のA～Eの工程、本稿の①～⑩の工程どおりに行っている場合、下記のURLにアクセスすることで確認することができます

URL 例: <http://localhost/esuccess/version/e-SuccessVersion.xml>

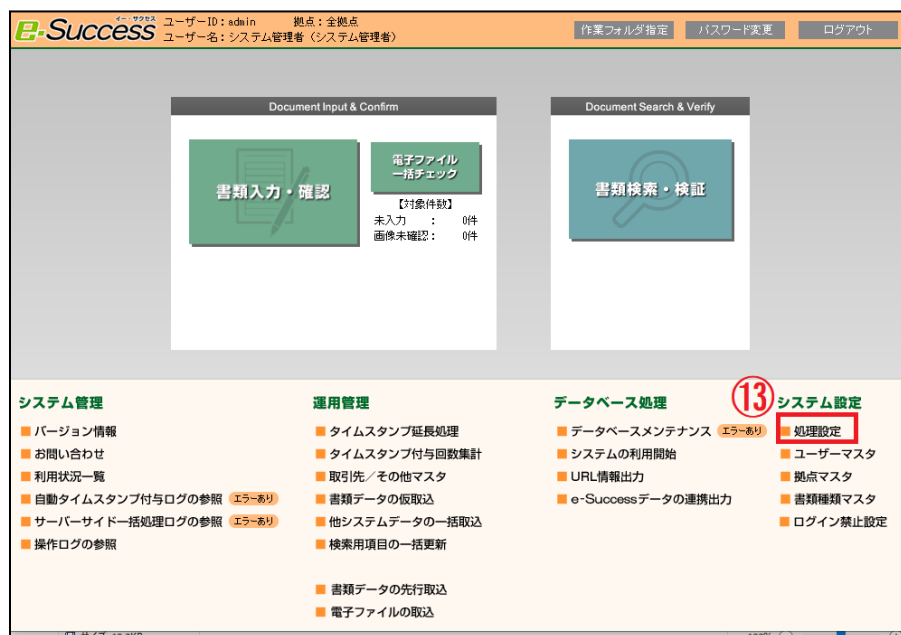


上記の画像は、Microsoft Edge で確認した場合の表示です。

⑫ 次にクライアント側で、アップデート機能を有効化します。e-Success(e-Success.exe) を起動し、システム管理者権限のアカウントでログインします。



⑬ ログイン後、メニュー画面が開いたら「処理設定」をクリックします。



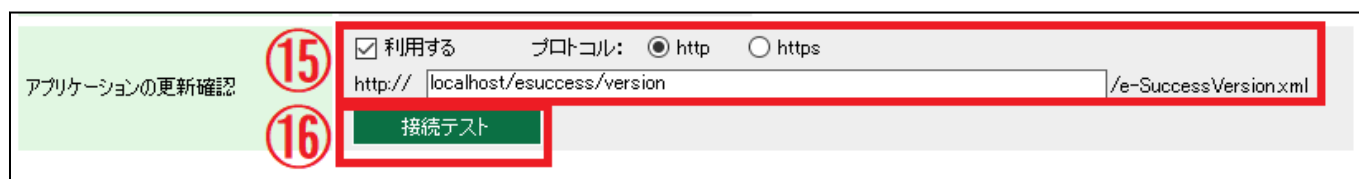
⑭ 「処理設定」の「システム設定」タブをクリックし、「アプリケーションの更新確認」を設定します。



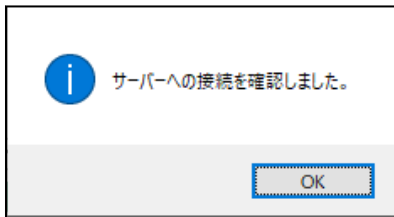
⑮ 「アプリケーションの更新確認」の「利用する」にチェックを入れ、次に Web サーバーに設定されている任意のプロトコルを設定します。

その後、⑦～⑩の工程で設定したバージョンの確認先をパスを設定します。工程通りの場合、下記の URL の入力例と画像のような設定になります。

URL の入力例: localhost/esuccess/version

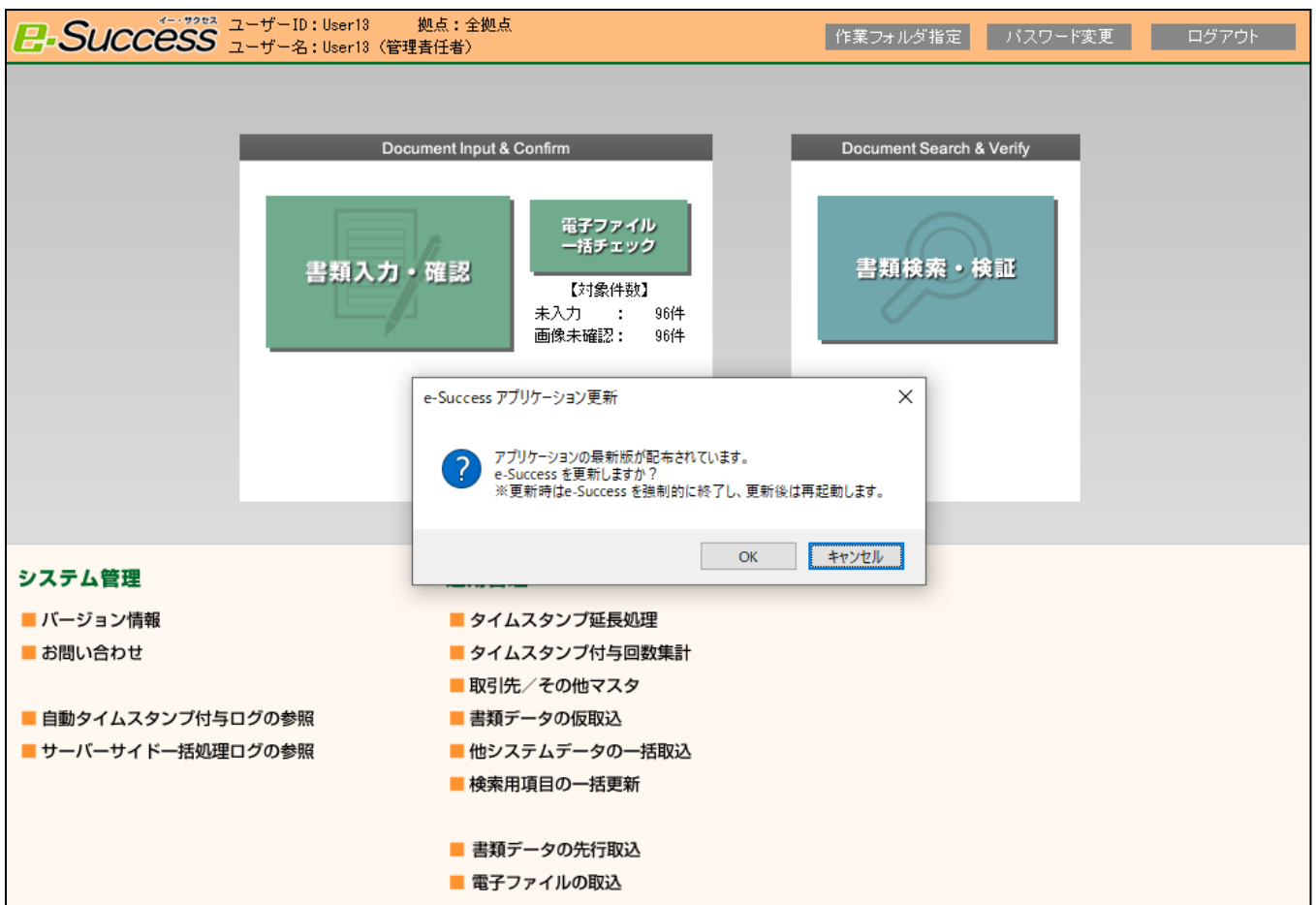


⑯ 設定が完了したら「接続テスト」を実行して、バージョンの確認先にアクセスできるか確認します。



⑰ 接続確認できたら [OK] をクリックし、[登録] クリックします。以上で、アップデート機能の有効化の設定は完了となります。

設定完了以降、毎回ログインする度にアプリケーションのバックグラウンド処理で、クライアントの最新版が更新されているか確認するようになります。最新版が確認できた場合、下記の画像のように、最新版があることを通知してくれるようになります。最新版に更新する時は、「OK」を押して更新処理を開始してください。



◆注意◆ 全 PC のクライアントがアップデートできるよう最新版をサーバーに常に準備

クライアントアプリ (e-Success) を使用されている全てのユーザー・PC に最新版のクライアントアプリを提供するには、システム管理者側で「version」内のファイル更新していく必要があります。

アンテナハウスから最新版の e-Success のセットアップファイルが提供されたら、本項目の⑦～⑩の工程実施して、XML ファイル (e-SuccessVersion.xml) とインストーラー (e-Success_Setup.exe) を更新してください。

G.アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定(オプション)

e-Success では、タイムスタンプ付与する際とタイムスタンプが有効であるか検証情報を取得するために、インターネットに接続する必要があります。

プロキシサーバーを経由してインターネットに接続する場合、Windows の「設定」で指定したプロキシ設定を使用して接続することも可能ですが、e-Success では、アプリケーションに対して独自のプロキシ接続情報を設定して、プロキシサーバーに接続することも可能です。

◆注意◆ 本機能の使用制限

本機能は、タイムスタンプ方式が「PADES」場合のみ機能します。また、タイムスタンプ方式を「PADES/XAdES」で指定されている場合は、書類種類のタイムスタンプ方式が「PADES」で設定されていれば同様に機能します。

本機能が使用できるアプリケーションは、下記になります。

- ・クライアントアプリ (e-Success.exe)
- ・自動タイムスタンプ付与アプリ (e-SuccessTimeStamp.exe)
- ・自動一括取込アプリ (e-SuccessBulkImport.exe)
- ・Web 検索機能 (Web アプリケーション: esuccess)
- ・リンクビュー (Web アプリケーション: esuccesslinkview)

◆注意◆ 本機能を使用する対象のユーザーについて

本機能を使用する際は、ユーザー社内のネットワークポリシー・セキュリティポリシーが「Windows の『プロキシ』設定を使用」してプロキシサーバー経由でインターネット接続するのではなく、「アプリケーション独自でプロキシ設定を使用」して接続をするような環境である時に使用することを推奨しております。

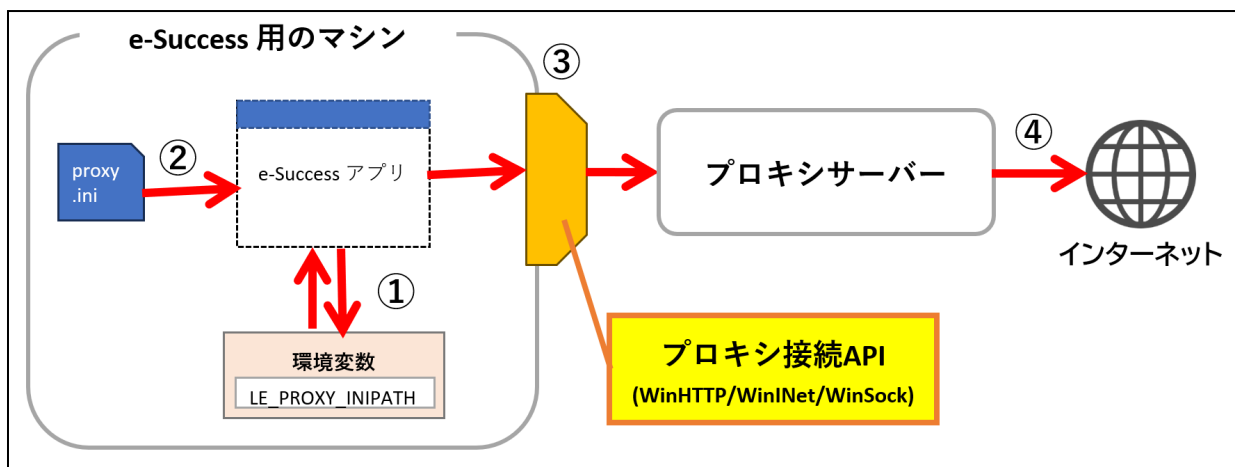
◆注意◆ 本機能の対象のプロキシサーバーについて

本機能の動作対象となるプロキシサーバーは、Squid になります。

上記以外の Apache 等のプロキシサーバーにつきましては、動作の確認ができていないため動作保証外となります。

予めご了承ください。

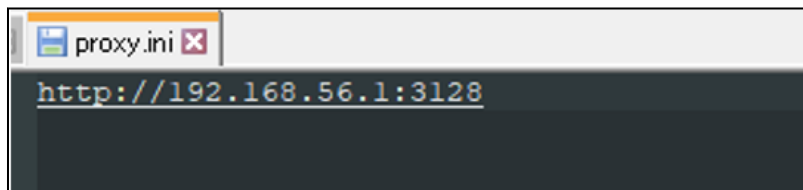
■独自プロキシ接続の設定概要



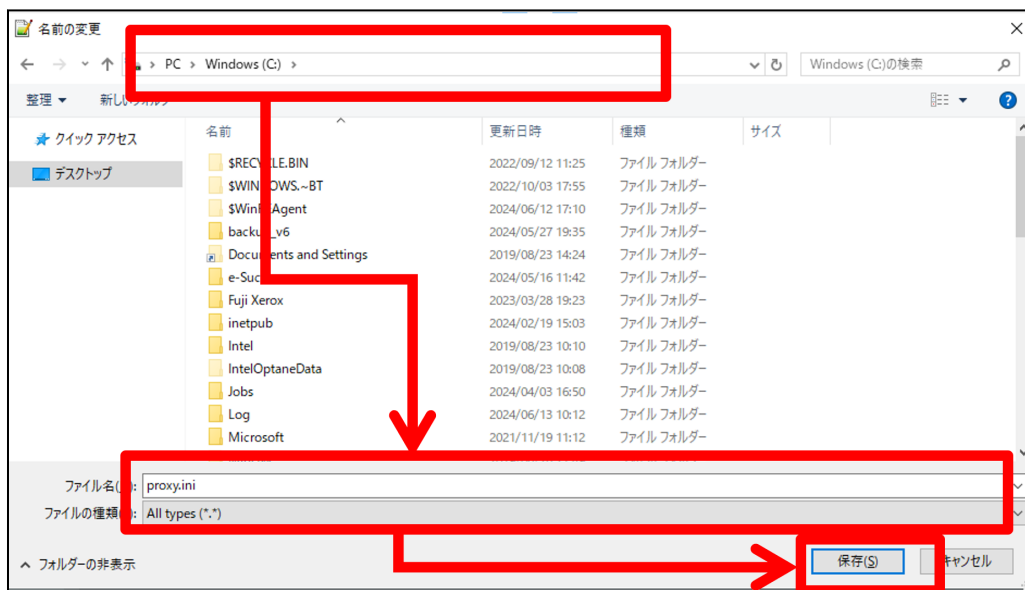
- (1) e-Success を稼働させているマシン (e-Success 用のマシン) 上で、e-Success の各種アプリケーション (e-Success アプリ) が、アプリ起動時にシステム環境変数を読み込み、その中のプロキシサーバーへの接続情報を保存している設定ファイル「proxy.ini」のパスを読み込みます。
- (2) e-Success アプリは、(1) で取得した「proxy.ini」のファイルパスの情報を元に、proxy.ini ファイルを読み込みます。この時、proxy.ini に入れるプロキシサーバーの設定情報は、プロキシサーバーの URL およびポート番号を設定します。
- (3) e-Success アプリで指定したプロキシ接続 API 使用して、(2) で「proxy.ini」で読み込んだプロキシサーバーに接続します。
- (4) プロキシサーバーに接続後、プロキシサーバーを経由してインターネットに接続し、セイコータイムスタンプサービスや検証情報の取得先などにアクセスします。

■proxy.ini の設定

- ① 任意のテキストエディタを起動します。
- ② 文字コードを「UTF-8」に設定します。



- ③ プロキシサーバーの URL とポート番号を指定します。
書き方の例: http://192.168.56.1:3128
- ④ ファイル名は、「proxy.ini」という名前で設定して、任意のパスにファイルを保存します。



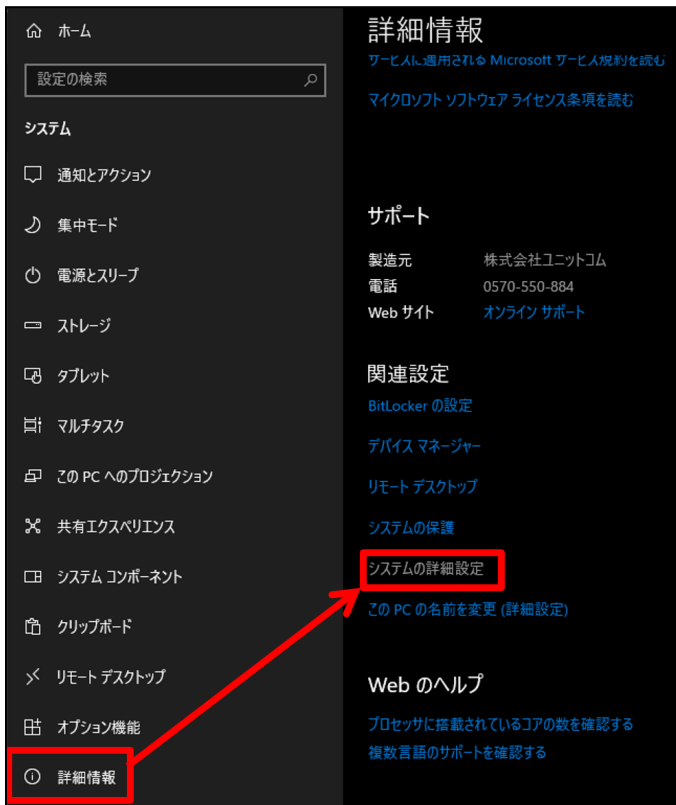
- ⑤ 次に環境変数「LE_PROXY_INIPATH」を追加し、これに「proxy.ini」のファイルパスを設定します。これにより、Le:PaDES に独自プロキシの設定を読み込ませるようにします。スタートメニューより「設定」アプリを起動します。



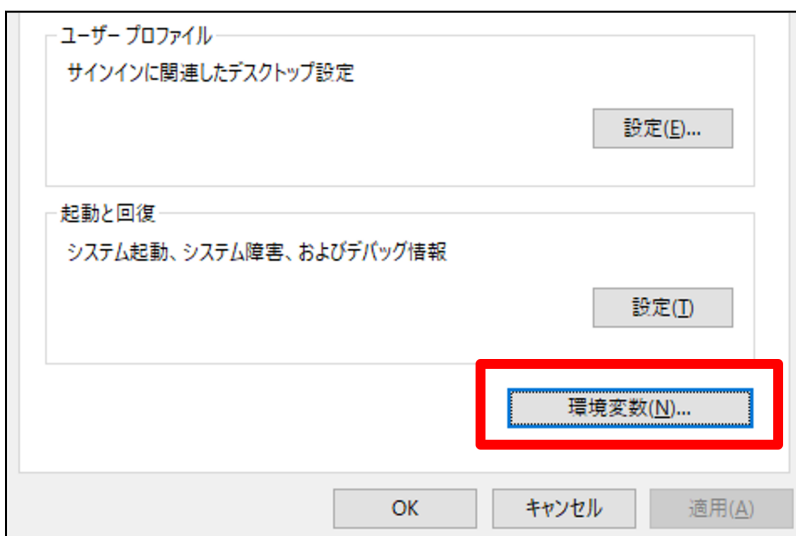
⑥ 「システム」をクリックします。



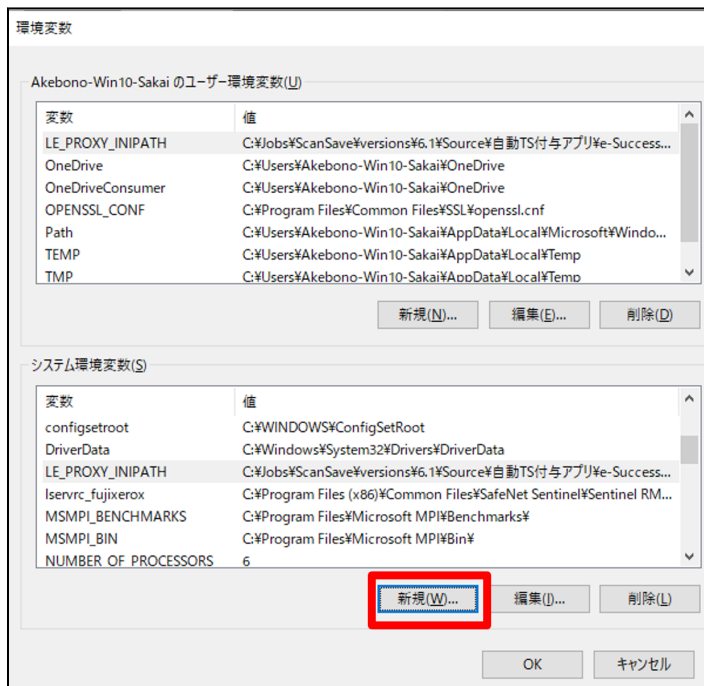
⑦ 「詳細情報」をクリック、「システムの詳細設定」をクリックします。



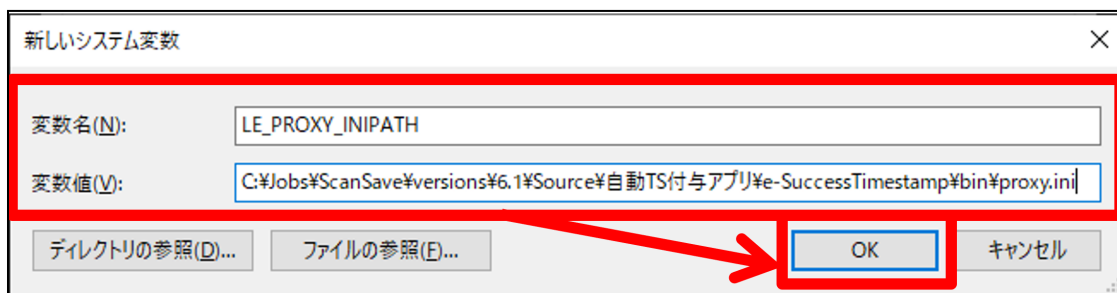
⑧ 「環境変数」をクリックし、proxy.ini のパスを追加します。



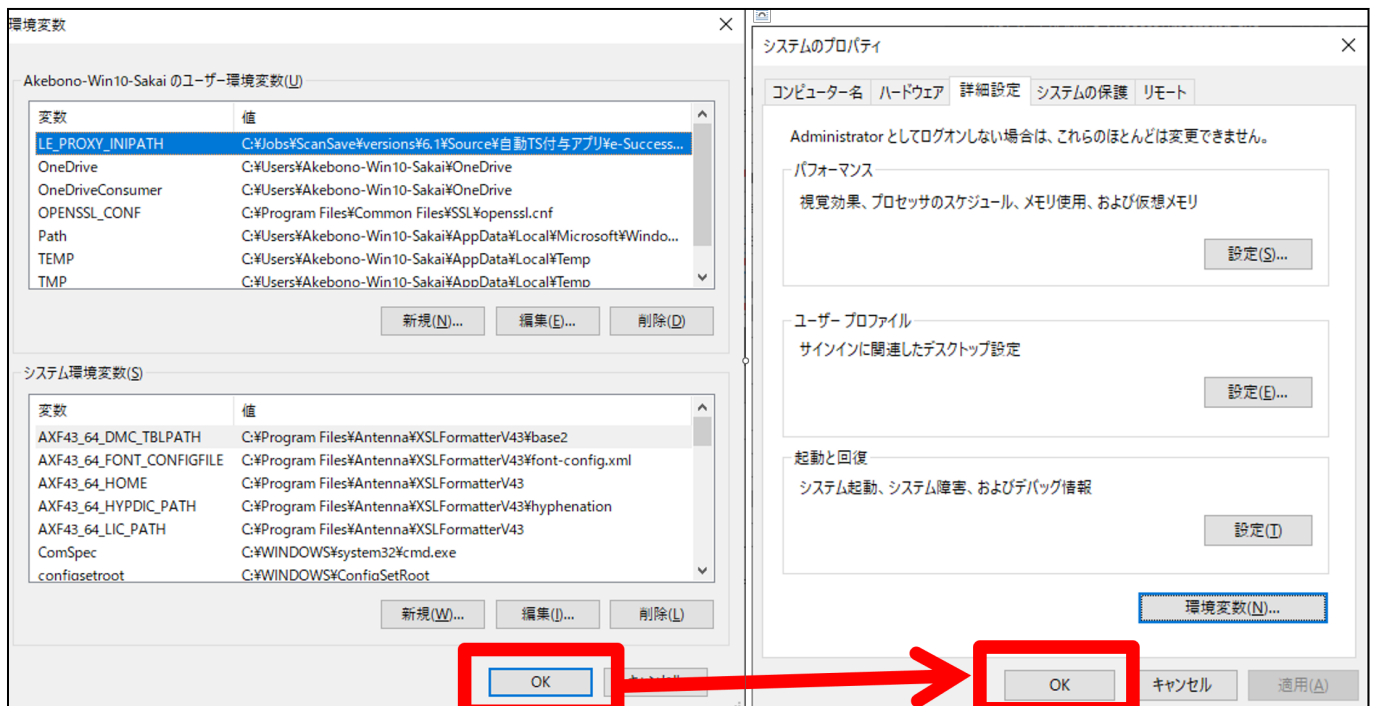
⑨ 「環境変数」画面が開きます。「システム環境変数」の「新規」をクリックします。



⑩ 「新しいシステム変数」の画面を開き、変数名「LE_PROXY_INIPATH」と読み込む「proxy.ini」の保存場所を指定します。



⑪ 環境変数の設定が完了したら、[OK]をクリックします。



⑫ 自動タイムスタンプ付与アプリを起動し、ログインします。

- ⑬ 「プロキシ接続方法」 よりいずれかの API を選択し、「タイムスタンプ設定テスト」をクリックします。

e-Success タイムスタンプ処理設定	
タイムスタンプ方式	PAdES(pdf) ▼
タイムスタンプ局(URL)	
認証方法	Basic認証 ▼
ユーザーID	
パスワード	*****
検証不備書類にも付与(PAdESのみ)	☒ タイムスタンプ付与する
プロキシ接続方法	☒ WinHTTP ☐ WinINet ☐ WinSock タイムスタンプ設定テスト
XAdESファイル数	

- ⑭ 「タイムスタンプ設定テスト」のテストに成功したら「登録」ボタンを押します。登録が完了すると、e-Success のデータベースにプロキシ接続API の設定情報が保存されます。

- ⑮ 最後に IIS に環境変数の設定を反映させるために、Windows を再起動します。

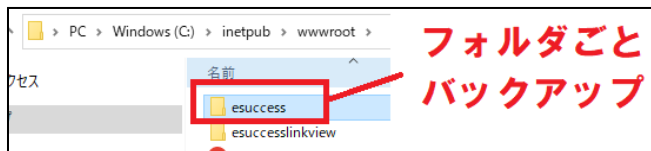
以上で、登録対応は完了となります。

2. アップデート

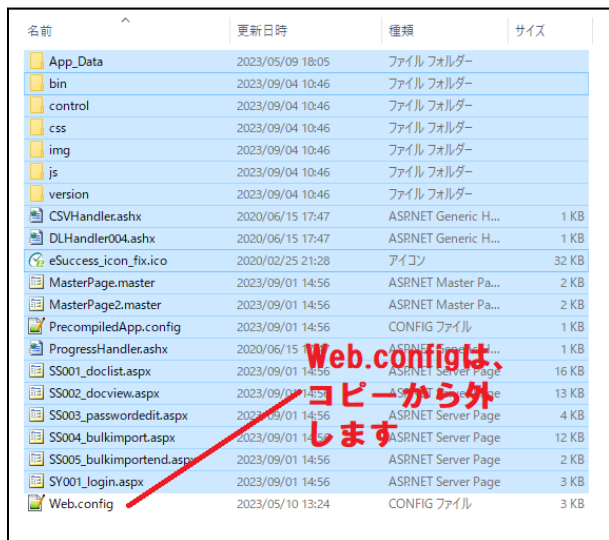
A.Web サービスをアップデート

最新の e-Success のセットアップファイルからファイルをコピーし、環境を再設定して、e-Success Web サービスの更新をします。次の手順で、e-Success Web サービスを更新してください。

- ① 作業を行う前に旧バージョンの Web 検索機能 [esuccess] を、任意のフォルダにバックアップしてください。

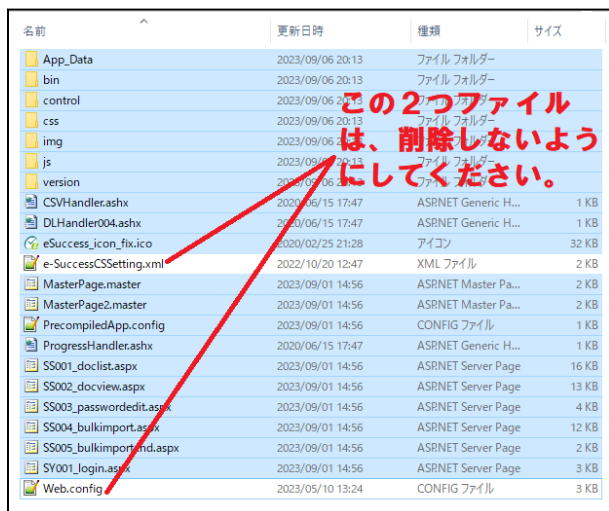


- ② セットアップファイルを解凍し、フォルダを開き、[e-SuccessWeb サービス] のフォルダを開きます。[esuccess] のフォルダ内にある [Web.config] 以外のファイルを選択して、右クリックで「コピー」をクリックします。



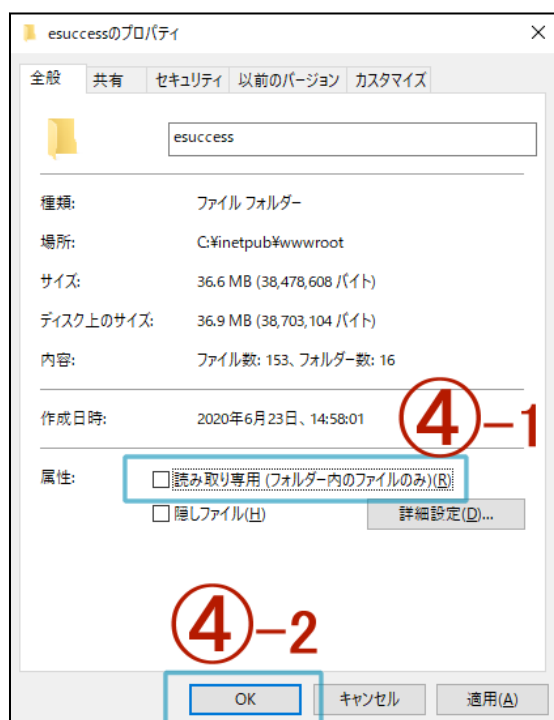
- ③ 旧バージョンの Web 検索機能 [esuccess] を置いているフォルダへ移動し、[Web.config] と [e-SuccessCSSSetting.xml] 以外のファイル・フォルダを全て削除します。

その後、右クリックで「貼り付け」をクリックします。



④ [貼り付け] が完了した後、階層を1つ上に戻し、[esuccess] フォルダを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。プロパティ表示の [全般] で、[属性] の [読み取り専用] チェックボックスをオフにして、[OK] ボタンをクリックします。

属性変更の確認画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックしてください。



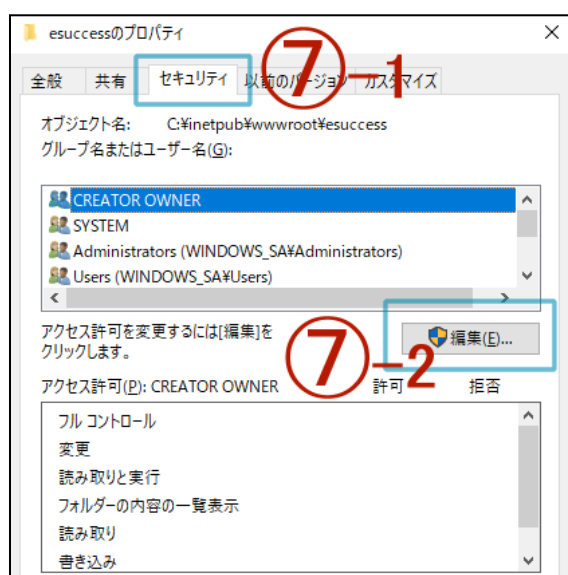
⑤ [esuccesslinkview] フォルダについても①～④と同様の手順で、読み取り専用を解除まで対応します。

⑥ [esuccess] フォルダ内の [App_Data] フォルダを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。

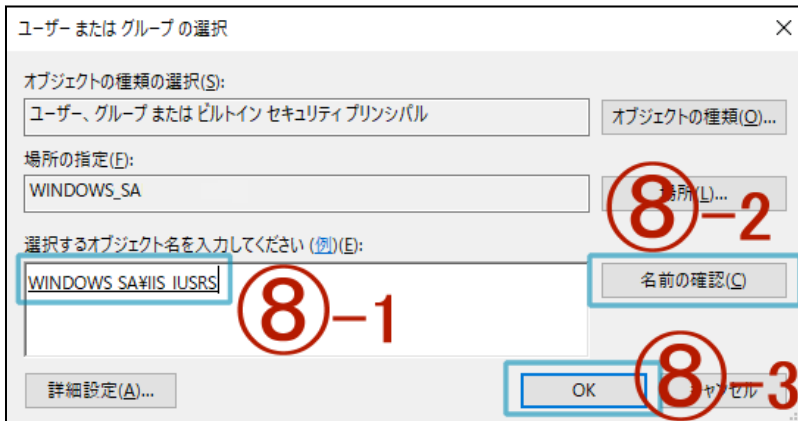
⑦ 次に「IIS_IUSRS」アカウントをアクセス許可に加えます。プロパティ表示の [セキュリティ] タブをクリックして、[編集] ボタンをクリックすると [App_Data のアクセス許可] ダイアログボックスが表示されます。

◆ヒント◆ IIS_IUSRS が、既に存在する場合

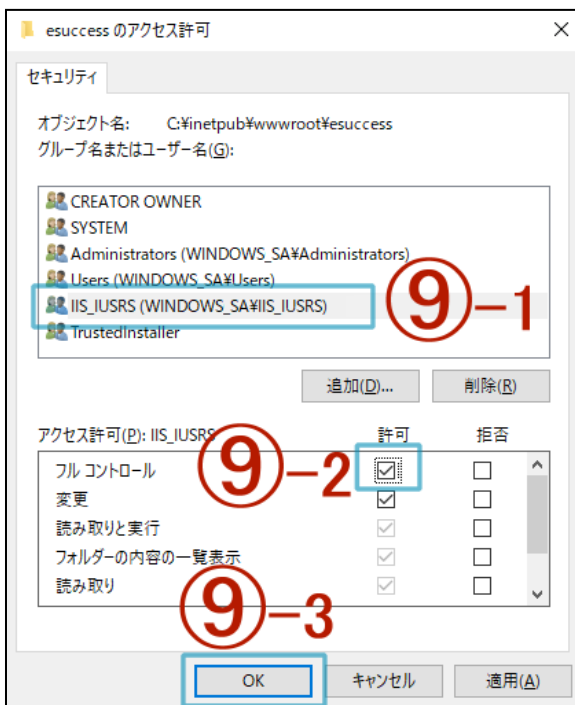
「C:\inetpub\wwwroot」内に、Webサービスを稼働させている場合、既に IIS_IUSRS が追加されている場合があります。その場合、次の⑧を飛ばし、⑨のステップに進んでください。



⑧ [App_Data のアクセス許可] ダイアログボックスで [追加] ボタンをクリックして、[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログボックスを表示します。[選択するオブジェクト名を入力してください] ボックスに **IIS_IUSRS** と入力して、[名前の確認] ボタンをクリックします。「サーバー名¥IIS_IUSRS」と下線付きで表示されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックします。

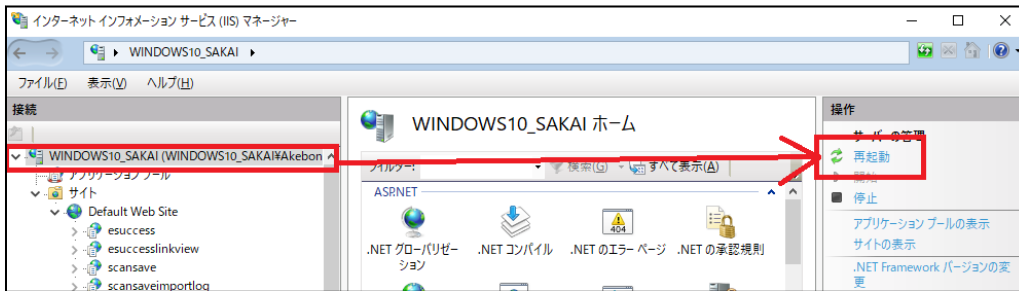


⑨ [グループ名またはユーザー名] の一覧で [IIS_IUSRS] を選択して、[フルコントロール] の [許可] チェックボックスをオンにし、[OK] ボタンを2回クリックして、アクセス許可とプロパティのダイアログボックスを閉じます。



⑩ [esuccesslinkview] フォルダについても手順⑥～⑨と同様の手順で、[App_data] フォルダに IIS_IUSRS グループのフルコントロールの権限を設定します。

⑪ 上記の工程を終え、2つのWebアプリケーションをアップデートしたら、一度IISを再起動します。サーバーマネージャーの右上にある[ツール]メニューから[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]をクリックします。その後、IIS マネージャーのウィンドウ左の[接続]から[(サーバーのコンピュータ名)]を選択し、ウィンドウ右の[操作]より[再起動]をクリックして、IISを再起動します。



以上で、e-Success Web サービスのアップデートは完了となります。

◆書類作業編◆

e-Success Web サービスによる書類の検索・表示や他システムデータの一括取込の機能について説明します。

1. e-Success Web サービスの起動

A. e-Success Web サービスを起動する

Web ブラウザで次の URL を指定すると、e-Success Web サービスに接続してログイン画面が表示されます。

http://サーバー名/esuccess/

サーバー名には「導入・設定編」で設定した Web サーバーの名前を指定してください。

B. e-Success Web サービスにログインする

e-Success Web サービスへのログインは、次の手順で行います。

- ① 「接続先」を選択し、「ユーザー ID」と「パスワード」を入力します。
- ② [ログイン] ボタンをクリックすると、e-Success Web サービスにシステムにログインできます。

◆ヒント◆ e-Success Web サービスのユーザーアカウント

ユーザーアカウントは、e-Success アプリケーションと共通になっています。あらかじめ、e-Success アプリケーションでユーザーを登録してからご利用ください。

◆注意◆ ユーザー ID とパスワード

ログイン時に指定するユーザー ID とパスワードは、いずれも半角全角、大文字小文字が区別されます。

◆注意◆ Cookie の利用

e-Success Web サービスでは、ユーザー認証の情報を管理するために Cookie を利用しています。Web ブラウザで Cookie を使用できるように設定してください。

◆注意◆ ログイン時の同時接続数の制限

e-Success アプリケーションと異なり、e-Success Web サービスは同時接続数の使用上の制限はありません。

◆注意◆ システム管理者のアカウント

e-Success Web サービスにはシステム管理者でのログインはできません。検索担当者、作業担当者、管理責任者のいずれかのアカウントを利用してください。各アカウントの権限については、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」をご覧ください。

2. 書類検索・検証・表示

A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索する

e-Success Web サービスにログインすると、書類データ一覧画面が表示されます。この画面で検索機能により、タイムスタンプ処理が終了した電子ファイルを参照できます。

処理	書類番号	検証結果	法令保存期限日	日付	書類種類	金額	品名	取引先	拠点	その他1	その他2	その他3
☐	0000026		2029/05/31	2029/09/08	請求書	1,468,800	品名	株式会社ScanSave 00	本社	ScanSave関係者用導入マニュアルサーバー	CSV連携00	拠点コード1
☐	0000082		2029/05/31	2029/09/08	請求書	1,468,800	品名	株式会社ScanSave 00	本社	ScanSave関係者用導入マニュアルサーバー	CSV連携00	拠点コード1
☐	0000098		2029/05/31	2029/09/08	請求書	1,468,800	品名	株式会社ScanSave 00	本社	ScanSave関係者用導入マニュアルサーバー	CSV連携00	拠点コード1
☐	0000134		2029/05/31	2029/09/08	請求書	1,468,800	品名	株式会社ScanSave 00	本社	ScanSave関係者用導入マニュアルサーバー	CSV連携00	拠点コード1

◆ヒント◆ 検索結果のコピー

検索結果の一覧で書類番号や取引先等をメモ帳などにコピーしたい場合は、該当項目のセルをマウスで選択してから、キーボードで [Ctrl] + [C] キーを押すことで、クリップボードにコピーできます。

書類検索・検証の画面は、次の2つのブロックで構成されています。

① 検索条件エリア

書類データの検索条件指定の項目が配置されています。右端に、[検索] ボタンと [検索条件クリア] ボタン、[CSV 出力] ボタンがあります。

◆ヒント◆ 「初回登録日時」等の登録日時を一覧表に表示する方法

「初回登録日時」「タイムスタンプ有効期限」等の書類データの各種登録日時を一覧表に表示する方法は、選択した登録日時の日付の範囲を指定する事で、一覧表の右端の項目に表示されます。

ファイル名	備考	初回登録日時
ScanSave-V4_0_1.pdf	備考	2022/10/06
ScanSave-V4_1_1.pdf	備考	2022/10/06
ScanSave-V4_2_1.pdf	備考	2022/10/06

② 検索結果の一覧

検索結果の一覧には、指定した条件に該当する書類データが表示されます。一覧の並び順は、項目名ラベルのクリックで変更できます。例えば、「書類番号」をクリックすると、書類番号の昇順で並び、項目名ラベルに昇順を示す▲マークが表示されます。再度クリックすると、降順に変わり、▼マークが表示されます。なお、書類番号以外の項目で並び替えた場合は、書類番号が第2ソートキーとして使用されます。

法令保存期限日が現在日時から見て過ぎている書類データが存在すると、下記の画像のように一覧部分の上部に、期限の過ぎた書類データの件数と対象の書類データのレコードは赤く表示されます。

法令保存期限日の詳細は、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」の「書類作業編」の「9. 法令保存期限日の通知」に記載しております。

法令保存期限を過ぎた書類データが 19 件あります。赤い行が対象の書類データとなります。「システム管理者」に問い合わせてください。								
全ON	全OFF	一括検証						
			全46件 (1~46件)					
処理	書類番号▲	検証結果	法令保存期限日	日付	書類種類	金額	品名	取引先
☐	0020256		2024/02/28	2016/09/09	請求書	1,468,800	品名	株式会社ScanSave 00
☐	0020299		2032/05/31	2024/04/16	請求書	5,555		

検索の実行

「検索条件エリア」で検索条件を指定して、[検索] ボタンをクリックすると、条件に適合するデータが検索結果の一覧に表示されます。複数の条件を指定した場合は、AND 条件で検索されます。

検索条件のクリア

[検索条件クリア] ボタンをクリックすると、「検索条件エリア」に指定したすべての検索条件を既定値に戻します。

※再度 [検索] ボタンをクリックすると、検索結果の一覧が更新されます。

一括検証

検索結果の一覧で、処理対象の書類データの [処理] チェックボックスをオンにして、[一括検証] ボタンをクリックすると、電子ファイルの検証が実施され、一覧の「検証結果」列に検証の結果が表示されます。検証結果は「○」（検証結果正常）、「△」（検証結果不明）、「×」（検証結果不正）で表記されます。すべてが「△」と「×」の場合は、インターネットへの接続や証明機関へのルート証明書、中間証明書についてご確認ください。

[全 ON] ボタンと [全 OFF] ボタンをクリックすると、画面上の一覧に表示されているすべての書類データの [処理] チェックボックスをオン・オフできます（一覧は 100 件または 200 件ごとにページングされ、検証対象は同じページに一覧されている書類データのみとなります）。なお、電子ファイルにタイムスタンプが付与されていない書類データについては [処理] 列に「未」と表示され、電子データにタイムスタンプを付与しない書類データについては「-」と表示されます。

CSV 出力

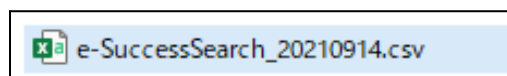
[CSV 出力] ボタンをクリックすると、検索結果の内容を CSV ファイルとして出力できます。

CSV ファイルの項目と仕様：

<出力ファイル名>

e-SuccessSearch_YYYYMMDD.csv

※YYYYMMDD にはファイル出力を実行した日付がセットされます。



<ファイルレイアウト>

書類番号
日付
書類種類名
金額
品名
取引先名
拠点名
その他項目 1
その他項目 2
その他項目 3
その他項目 4
その他項目 5
その他項目 6
ファイル名
備考

※1 行目には項目名が出力されます。

※その他項目 1~6 については、e-Success に設定されているその他の項目名が出力されます。

検索結果の CSV ファイル出力例：

e-SuccessSearch_20210914.csv - Excel

書類番号	日付	書類種類	金額	品名	取引先	拠点	その他1	その他2	その他3	その他4	その他5	その他6	ファイル名	備考
003	2016/08/01	領収書	10,003	株式会社003	本社	user07 (3)	他システムデータ0003	その他3-003	その他4-003	その他5-003	その他6-003	user07 (3).pdf	備考 test	
004	2016/08/01	領収書	10,004	株式会社004	本社	user07 (4)	他システムデータ0004	その他3-004	その他4-004	その他5-004	その他6-004	user07 (4).pdf	備考 test	
005	2016/08/01	領収書	10,005	株式会社005	本社	user07 (5)	他システムデータ0005	その他3-005	その他4-005	その他5-005	その他6-005	user07 (5).pdf	備考 test	
006	2016/08/01	領収書	10,006	株式会社006	本社	user07 (6)	他システムデータ0006	その他3-006	その他4-006	その他5-006	その他6-006	user07 (6).pdf	備考 test	
007	2016/08/01	領収書	10,007	株式会社007	本社	user07 (7)	他システムデータ0007	その他3-007	その他4-007	その他5-007	その他6-007	user07 (7).pdf	備考 test	
008	2016/08/01	領収書	10,008	株式会社008	本社	user07 (8)	他システムデータ0008	その他3-008	その他4-008	その他5-008	その他6-008	user07 (8).pdf	備考 test	
009	2016/08/01	領収書	10,009	株式会社009	本社	user07 (9)	他システムデータ0009	その他3-009	その他4-009	その他5-009	その他6-009	user07 (9).pdf	備考 test	

◆ヒント◆ 「書類種類」列での並び替え

「書類種類」列で並び替えた場合、書類種類マスタの「並び順」の昇順―「書類種類名」の昇順で表示されます（並び順が空欄の場合は、後方に列挙されます）。

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△：検証情報の不足。ルート証明書や中間 CA 証明書、CRL ファイル等が不足している。

×：検証結果の不正。不正のケースとしては、検証情報が全くない。署名情報の形式である XML として不正な文字が使われていたり、XMP として認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足

書類データの署名検証の結果において、署名情報に何らかの不備や検証時に必要な情報・ファイルが不足している場合は、結果が「△」と「×」となるケースがあります。

以下が、主な要因となって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、次の「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合（PAdES のみ）」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんが、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

「ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している」という点で、結果が「△」と「×」になる書類については、Windows 内部にインストールされている証明書と e-Success の「store」フォルダ内の証明書に、書類データ付与されている署名情報と紐づいているルート証明書もしくは中間 CA 証明書が不足していることで、本エラーが発生します。

もし「ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している」が原因の場合は、以下のような対応を行ってください。

※本対応は、インターネットを接続した環境と、Web ブラウザを使用したユーザーによる調査が必要となります。

- ① 検証結果が「△」と「×」になった書類を書類ビュー画面で開きます。
- ② 画面右下の、検証結果の「△」と「×」をクリックし、以下の検証結果情報を確認します。

```

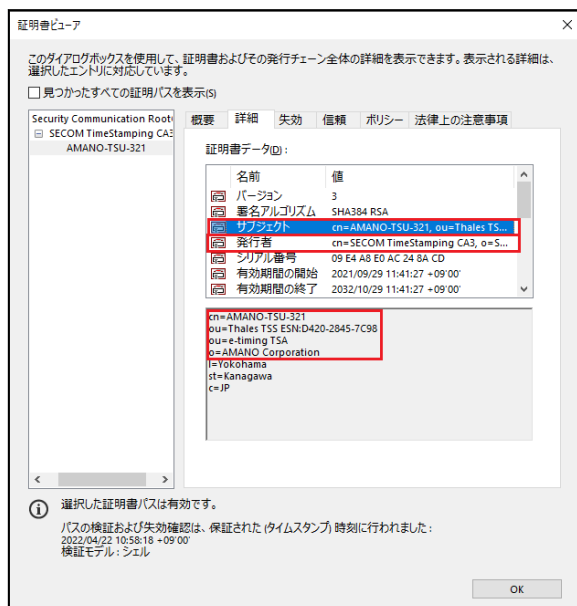
文書タイムスタンプ(DocTS): 名前(e-timing
EVIDENCE3161_1) ハッシュ方式(sha512)
署名データハッシュ
(
ByteRange
署名検証: 有効(VAILD) - 署名は改ざんされておらず有効
署名時刻:
証明書検証: 不明(INDETERMINATE) - 検証情報の不足又は期限切れ等がある
エラー(cert chain build error.)
証明書: 検証(不明(INDETERMINATE)) 取得(data)
名前(AMANO-TSU-321)
番号( ) 期限( )
  
```

すると、画像の場合、「e-timing」の署名と「GlobalSign」の証明書、「AMANO-TSU-321」の証明書の名前が記述されており、この場合、アマノタイムスタンプサービス製のタイムスタンプが PDF に付与されていることが確認できます。

③ ②の情報を元にアマノタイムスタンプサービスのサポートサイトを調査すると、「ルート CA 証明書および中間 CA 証明書の追加設定のお願い (<https://www.e-timing.ne.jp/news/detail/70>)」と証明書の追加について詳細を記したページにたどり着くので、アマノタイムスタンプサービス様で配布しているルート証明書および中間 CA 証明書をダウンロードし、Windows ヘインストールもしくは「store」の「certs(中間 CA 証明書の保存用フォルダ)」「trusts(ルート証明書の保存用フォルダ)」に入れます。

④ 再度検証して結果が「○」になれば、証明書の追加作業は完了となります。また、「自動タイムスタンプ付与アプリ (e-SuccessTimeStamp.exe)」「自動一括取込アプリ (e-SuccessBulkImport.exe)」「Web 検索機能」「リンクビュー」の各種アプリにも「store」フォルダがセットで用意されています。こちらにも、各種証明書の追加を忘れないようにしてください。

なお、タイムスタンプ付与済みの PDF については、Adobe Acrobat Reader でも、署名データおよび証明書の情報を確認できますので、証明書を調査する場合はこちらもご活用ください。



◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PADES のみ)

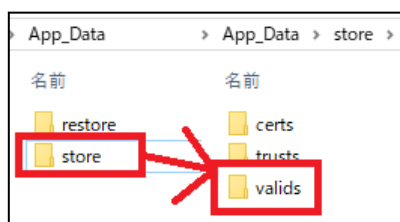
署名検証時は、署名情報と署名と紐づくルート証明書と中間 CA 証明書の有効性を確認するためにインターネット接続を必須としておりますが、ユーザーのネットワーク環境の都合上どうしてもインターネットに接続ができない場合は、検証に必要な CRL ファイルと OCSP ファイルを事前にダウンロードすることで、オフラインでも検証が可能です。

【オフラインでの検証環境の構築方法について】 セイコータイムスタンプサービスでタイムスタンプ付与された PDF を検証する場合は、以下のような対応になります。

① Web 検索機能とリンクビューの「App_Data¥store」フォルダを開き、その中に「valids」というフォルダを追加します。

※インストール先を Web.config の既定のままの場合、Web 検索機能のデフォルトのフォルダパスは「C:¥inetpub¥wwwroot¥yesuccess¥App_Data¥store」になります。

リンクビューは、「C:¥inetpub¥wwwroot¥yesuccess¥linkview¥App_Data¥store」になります



② 以下の URL にアクセスし、CRL ファイルと OCSP ファイルをダウンロードします。

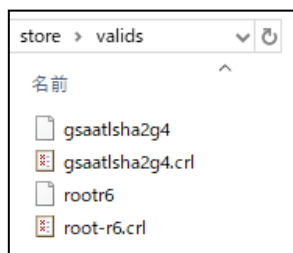
【CRL ファイル】

- ・ <http://crl.globalsign.com/ca/gsaatlsha2g4.crl>
- ・ <http://crl.globalsign.com/root-r6.crl>

【OCSP ファイル】

- ・ <http://ocsp.globalsign.com/ca/gsaatlsha2g4>
- ・ <http://ocsp2.globalsign.com/rootr6>

- ③ ダウンロードした CRL ファイルと OCSP ファイルを、「valids」フォルダに入れます。



- ④ Web 検索機能にアクセスしてログインし、「書類検索・検証」画面を開きます。

- ⑤ 「一括検証」処理を実行し、結果が「○」になれば設定が完了となります。

◆注意◆ 「全拠点」所属のユーザーと「複数の拠点」所属のユーザーの違い

「全拠点」所属のユーザーと「複数の拠点」所属のユーザーとでは、検索項目の「拠点名」に選択できるドロップダウンリストの内容が異なります。

「全拠点」所属のユーザーの場合は、「(すべて)」と登録した書類が属する拠点がリストアップされます。

「複数の拠点」所属のユーザーの場合は、ユーザーマスタに登録した所属する「主な拠点」と「その他の拠点」でリストアップされます。なお、「複数の拠点」所属のユーザーは、リストの中に「(すべて)」の項目がありません。

◆注意◆ タイムスタンプ付与を行わない電子ファイルの場合

書類種類マスタでタイムスタンプ付与を行わないように設定した書類種類の電子ファイルについては、[処理] チェックボックスは指定できません。書類種類マスタの設定方法は、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」の導入・設定編「6. 書類種類マスタ管理」を参照してください。

◆注意◆ 検証不備の PDF について

検証不備の PDF は、以下のようにセルが水色で表示されます。

タイムスタンプ付与済みの PDF と同様検証することは可能ですが、タイムスタンプ日時の情報がいないため、検証結果が「○」となってタイムスタンプ日時がわかるようになりその有効性が認められるまでは、セルは水色の表示のままとなります。

処理	書類番号▲	検証結果	法令保存期限日
☐	0000199		2028/05/31
☐	0000200		2028/05/31

検証不備の書類は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプを付与することができます。また、タイムスタンプ付与した場合は、検証することも可能です。

しかし、検証不備のタイムスタンプと二重で署名になることから、タイムスタンプサービスのタイムスタンプに問題はなくとも、検証不備のタイムスタンプに問題がある場合は、結果が「△」となり有効化が認められません。

検証不備の PDF を取り込まれる際は、あらかじめ上記をご理解した上で取り込んでください。

また、不足しているルート証明書、中間 CA 証明書を追加する等といった対応行って、検証不備のタイムスタンプを有効化するか、できない場合は論理削除等するなり適宜運用をしてください。。

※検証不備の書類に対してタイムスタンプ付与する場合は、自動タイムスタンプ付与アプリで検証不備の書類に付与できるように設定する必要があります。

設定方法は、「e-Success Standard/Pro 導入・運用マニュアル」の「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」の「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を確認してください。

B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示する

書類一覧画面で、検索結果の一覧にある書類番号リンクをクリックすると、書類表示画面に遷移します。書類表示画面は、次のように3つのブロックで構成されています。

The screenshot displays the E-Success document viewer. The main area shows a scanned invoice from 'アテナハウス (株)' dated 2016/09/09. The invoice includes a table of items with columns for date, item name, quantity, unit price, and total amount. The total amount is ¥1,468,800. The sidebar on the right contains document metadata, including document number 17, document type '請求書' (Invoice), and various other fields. The interface also shows a file name 'ScanSave-V4_1.pdf' and a toolbar with zoom and navigation controls.

① 書類ファイルプレビューエリア

書類データ検索結果一覧から指定した書類データの、ファイル名項目に登録されている電子ファイルの内容が表示されます。

また、「ファイル名」をクリックすることで、プレビューしている電子ファイルをダウンロードできます。

◆注意◆ Web ブラウザで表示可能なファイルについて

Web 検索機能およびリンクビューの電子ファイルプレビューエリアでは、保存形式とインストールしているアプリケーションによって、Web ブラウザ上で表示できるファイルとできないファイルが存在します。

下記は、各拡張子の表示の可・不可をまとめた表になります。

保存形式	表示	補足
PDF(.pdf)	○	Adobe Acrobat Reader をインストールすることで表示されるようになります。 「Adobe Acrobat Reader」のインストーラーは、下記の URL よりダウンロードしてください。 https://www.adobe.com/jp/acrobat/pdf-reader.html
JPEG(.jpg, .jpeg)	○	
PNG(.png)	○	
TIFF(.tif, .tiff)	△	Safari のみ表示可能
Docuworks(.xdw)	○	「Docuworks」もしくは「Docuworks Viewer Light」のインストールすることによって、Microsoft Edge, Google Chrome で XDW ファイルを表示できます。「Docuworks Viewer Light」インストーラーは、下記の URL より無料でダウンロードすることができます。 https://www.fujifilm.com/fb/ja/support/software/document-management/docuworks/download/101 また、インストール後、Web ブラウザのプラグインが有効化されていない場合があるので、下記のページを参考にして、プラグインの有効化を行ってください。 https://www.fujifilm.com/fb/ja/support/software/document-management/docuworks/info/dw10/094 ※なお、XDW を e-Success 上で表示する際は、「Docuworks Viewer Light」プラグインの仕様上、別ウィンドウで表示されます。 【Docuworks 8 以前をインストールしている場合】 Docuworks 8 以前のバージョンをインストールされている場合は、Microsoft Edge の IE モードを使用することによって表示されるようになります。(IE モードのサポート期限は、2029 年まで) Microsoft Edge の IE モードの使用方法は、下記になります。 ①Microsoft Edge を起動します。 ②ウィンドウ右上の「…」をクリックし、「設定」をクリックします。 ③ウィンドウ左の「設定」のメニューより、「既定のブラウザー」をクリックします。 ④「Internet Explorer モード (IE モード) でサイトの再読み込みを許可」を「許可」に設定します。

		⑤「Internet Explorer モード ページ」に Web 検索機能の「書類ビュー」画面とリンクビューの「書類ビュー」画面を各 URL を追加します 追加する URL 例: ・Web 検索機能: http://localhost/esuccess/SS001_doclist.aspx ・リンクビュー: http://localhost/esuccess/linkview/SS001_docview.aspx ※「localhost」の箇所は、任意の IP アドレス・ドメイン名に変更して問題ありません。
Word(.doc, .docx)	×	
Excel(.xls, .xlsx)	×	
PowerPoint(.ppt, .pptx)	×	
CSV(.csv)	○	対象の文字コードは、「Shift-JIS」「UTF-8」の 2 種類となりまた、自動で文字コードを判別してビューアーに表示されます。下記の点を守って、CSV ファイルを登録してください。 ・最初の 1 行目に項目名を入力してください。 ・値を区切る際は、「,(カンマ)」で区切ってください。 ※Shift-JIS に UTF-8 の文字が含まれている等の影響によって、文字コードを誤変換し文字化けが発生する可能性があります。あらかじめご了承ください。

※○は可、×は不可

② 書類データ内容表示エリア

検索された書類データの、各項目の入力内容を表示します。

◆ヒント◆ 書類番号のコピー

書類番号をメモ帳などにコピーしたい場合は、コピーしたい書類番号をマウスでドラッグして選択してから Ctrl+C キーを押すことで、クリップボードにコピーできます。

◆ヒント◆ 金額の単位の切り替わり

書類種類を選択すると、「金額」の入力欄の横の単位が書類種類マスタで設定した金額の単位に切り替わります。金額の単位を「なし」に設定している場合は、非表示になります。

③ 電子データ属性・処理状況表示エリア

書類データ内容表示エリアの下に、電子データの属性（スキャン画像の解像度、階調、カラー/モノクロ）とタイムスタンプ付与状況、書類データの最終入力日時などの情報が表示されます。

「法令保存期限日」は、現在日時から過ぎると赤色に表示されます。

解像度：200dpi 階調：256 カラー
 タイムスタンプ日時：2021/08/30 21:09:22 検証結果：○
 タイムスタンプ付与者：システム管理者
 タイムスタンプ有効期限：2032/05/10 09:00:00
 最終入力日時：2021/09/14 20:02:58
 最終入力者：User01
 法令保存期限：2027/05/31 23:59:59

作業日時

入力履歴

◆ヒント◆ PDF ファイルが複数ページある場合

複数ページで構成されている PDF は、下記のプルダウンリストが表示され、ページを選択することで各ページのスキャン画像の解像度、階調、色を確認することができます。

そして、一部分のページでも解像度、階調、色の判定基準を確保していればエラーにしません。

※なお、Word などのフィスソフトで作成したページについては、解像度、階調、色のページの詳細情報は表示されません

解像度：141dpi 階調：256 色：カラー

1ページ目

タイムスタンプ日時：2022/12/22 17:16:31 検証結果：○

タイムスタンプ付与者：自動タイムスタンプ付与処理

タイムスタンプ有効期限：2033/07/17 08:59:59

最終入力日時：2023/01/31 19:52:09

最終入力者：User13

法令保存期限：2026/11/30 23:59:59

作業日時

入力履歴

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△：検証情報の不足。ルート証明書や中間 CA 証明書、CRL ファイル等が不足している。

×：検証結果の不正。不正のケースとしては、署名情報の形式である XML として不正な文字が使われていたり、XMP として認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった場合

書類データの署名検証の結果において、署名情報に何らかの不備や検証時に必要な情報・ファイルが不足している場合は、結果が「△」と「×」となるケースがあります。

以下が、主な要因となって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、の「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を参照してください。

「ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している」が不足しているケースについては、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

[作業日時] ボタンをクリックすると、書類データの入力完了、スキャン画像確認、タイムスタンプ付与者の情報を含む、すべての作業情報がオーバーラップ表示されます。書類データの入力完了情報は、書類データのすべての必須項目の入力が完了した日時および作業者を示します。また、スキャン画像確認は、[スキャン画像確認] チェックボックスをオンにしたときの日時および作業者を示します。

作業日時	閉じる
🔍 検索用項目入力完了日：2021/06/21 検索用項目入力完了者：一括取込処理	
✔️ スキャン画像確認日：2021/06/21 スキャン画像確認者：一括取込処理	
🕒 タイムスタンプ日時：2021/08/30 21:09:22 タイムスタンプ付与者：システム管理者 タイムスタンプ有効期限：2032/05/10 09:00:00	
最終入力日時：2021/09/14 20:02:58 最終入力者：User01	
法令保存期限：2027/05/31 23:59:59	

④ 検証結果リンク

タイムスタンプ日時の右には「検証結果」へのリンクがあります (○)。リンクをクリックすると、検証結果の詳細がオーバーラップ表示されます。

検証結果

閉じる

LE:PADES:Lib Signature Verify Result Report
V1.07.R2a

署名有効性検証: 有効 (VALID) - 署名は改ざんされておらず証明書も有効

文書タイムスタンプ (DocTS): 名前 (DocTS2) ハッシュ方式 (sha512)
署名データハッシュ
(0383BC86348E3F703413BFF0C30B477044741538)
ByteRange [0 116879 151697 553]
署名検証: 有効 (VALID) - 署名は改ざんされておらず有効
署名時刻: 20210830120922.962166Z
証明書検証: 有効 (VALID) - 証明書は有効
証明書: 検証 (有効 (VALID)) 取得 (data) 検証 (CRL)
名前 (SEIKO Timestamp Service. Accredited A2W02-008)
番号 (478752BE2F8378F47466452F) 期限 (20320510000000Z)
CRL: 取得 (network) 更新 (20210914090008Z)
証明書: 検証 (有効 (VALID)) 取得 (data) 検証 (CRL)
名前 (GlobalSign CA for AATL - SHA384 - G4)
番号 (01E9D8A4A62D2B28113982A94D) 期限 (20341210000000Z)
CRL: 取得 (network) 更新 (20210707000000Z)
証明書: 検証 (有効 (VALID)) 取得 (data)
名前 (GlobalSign)
番号 (45E6BB038333C3856548E6FF4551) 期限 (20341210000000Z)

なお、書類表示画面の「検証結果」は、次の場合は表示されません。

- ・当該の書類が削除済みのとき
- ・当該の書類がタイムスタンプ未付与のとき
- ・当該の書類がタイムスタンプを付与しないに設定されている書類種類のとき

◆ヒント◆ XAdES-V2, XAdES-V3 の検証結果について

「XAdES」とは、W3C 勧告の XML 署名 (Xmldsig) を長期署名化した電子署名ファイルフォーマットです。e-Success では「まとめてタイムスタンプ方式」や PDF を含む Docuworks 等様々な電子ファイルを対象にタイムスタンプを付与する際に利用します。

e-Success-V6.5 以降の XAdES 方式の署名・タイムスタンプ付与は、XAdES-V3 が採用されております。これにより、検証時に使用する証明書、CRL の情報がより詳細に表示されるようになりました。

XAdES-V2, XAdES-V3 で検証結果を比較すると、以下の画像のとおり内容が異なります。

XAdES-V2 の検証結果	XAdES-V3 の検証結果
対象: 0000001.xml xades.setRootStore : 13 xades.loadXml : 1 xades.getType : 4197 xades.getTypeStr : XAdES-A xades.getVersion : 2.04.R2 マニフェストあり 1個 xades.verify : 1 Result : ◎文書正常 Signer : ts-test01 STS-Time : 2026-03-30T21:03:57.184429 ATS-time : 2026-03-30T21:03:58.700022 Valid : 2036-08-18T18:58:59 ma.verifyReferences(9) : 1 検証完了 問題なし	LE:XAdES3:Lib Signature Verify Result Report V3.01.R3 署名有効性検証: 有効:VALID - 署名や参照先は改ざんされておらず証明書も有効 署名ID: 検証(有効:VALID) パス(/Signature) Id(LxSig-1) 形式(14:XAdES-A-XL) 署名参照検証: 検証(有効:VALID) Id(LxSI-2) 署名値: 検証(有効:VALID) 暗号(RSA/SHA512) 正規化(INC) 鍵(cert) 参照[0]: 検証(有効:VALID) URI(XAdES_Mani_0000021.xml) 種別(DOUT) ハッシュ(SHA512) 変換(INC) 参照[1]: 検証(有効:VALID) URI(#{LxXS-7}) 種別(XOBJ) ハッシュ(SHA512) 変換(INC) 署名証明書検証: 検証(有効:VALID) 時刻(20260330210629+0900) 証明書: 検証(有効:VALID) 取得(keyInfo) 検証(OCSP) 名前(ts-test01) 番号(661DD184522ED82AE93001DF) 期限(20270111123055+0900) OCSP: 取得(sigValid) 更新(20251204150002+0900) 証明書: 検証(有効:VALID) 取得(sigValid) 検証(OCSP) 名前(GlobalSign GCC R45 Client Authentication CA 2024) 番号(00814E424EE74801ED9D29F783E4BEE61A) 期限(20340619090000+0900) OCSP: 取得(sigValid) 更新(20251204150002+0900) 証明書: 検証(有効:VALID) 取得(sigValid) 名前(GlobalSign Client Authentication Root R45) 番号(7653FEB9F5C7DBEA8BA478D43E3D6BF6) 期限(20450318090000+0900) 証明書: 検証(有効:VALID) 取得(valid) 名前(gsgccr45clientauthca2024 - OCSP)

なお、e-Success-V6.5 では、e-Success-V6.4 以前のバージョンで採用されていた XAdES-V2 の署名・タイムスタンプ付与された書類に対しても署名検証が可能ですので、これまで通りご利用ください。

◆注意◆ 検証不備のPDFについて

取り込んだ検証不備のPDFもタイムスタンプ付与済みのPDFと同様、画面を開くと、PDFに付与されているタイムスタンプを検証します。

しかし、検証不備であることから正確なタイムスタンプ日時等の情報がないため、検証結果が「○」となってその有効性が認められるまでは、検証結果以外のタイムスタンプ付与に関わる情報は表示されません。

検証不備の書類は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプを付与することができます。また、タイムスタンプ付与した場合は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプ日時が記録され、検証することも可能です。

しかし、検証不備のタイムスタンプと二重で署名になることから、タイムスタンプサービスのタイムスタンプに問題はなくとも、検証不備のタイムスタンプに問題がある場合は、結果が「△」となり有効化が認められません。

また、不足しているルート証明書、中間CA証明書を追加する等といった対応行って、検証不備のタイムスタンプを有効化するか、できない場合は論理削除等するなり適宜運用をしてください。

※検証不備の書類に対してタイムスタンプ付与する場合は、自動タイムスタンプ付与アプリで検証不備の書類に付与できるように設定する必要があります。

設定方法は、「e-Success Standard/Pro 導入・運用マニュアル」の「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」の「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を確認してください。

⑤【入力履歴】ボタン

【入力履歴】ボタンをクリックすると、表示している書類データの検索用項目の更新履歴がオーバーラップ表示されます。

【表示対象】ドロップダウンリストで登録日を選択すると、選択した登録日時点のデータを確認できます。

入力履歴 閉じる

表示対象: Rev.13 : 2021/09/14 20:02 登録 ▼

書類データ内容	
書類番号	2011
拠点	本社
書類種類	請求書
日付	2016/09/09 ☐ 帳簿無関係
金額	1,468,800 円
品名	ScanSave-V2
取引先名	アンテナハウス株式会社
その他項目1	ScanSave-V4_0
その他項目2	CSV連携00
その他項目3	拠点コード1
その他項目4	111
その他項目5	
その他項目6	
備考	備考

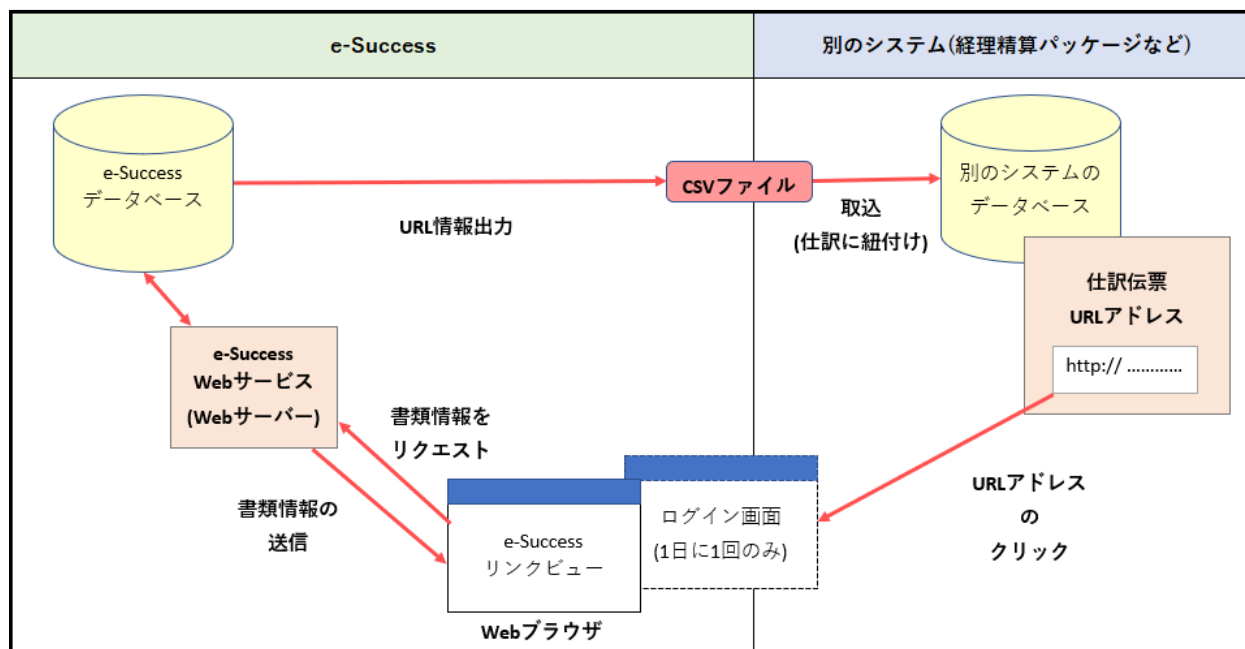
☒ スキャン画像確認
(紙原本と画像の照合)

表示対象の枠内をクリックすると、登録日の履歴がドロップダウンリストで表示されます。履歴から登録日を指定すると、その登録日時点の登録内容が表示されます。

3. e-Success リンクビューによる書類表示

A. URL 情報出力の CSV ファイルを作成する

e-Success リンクビュー機能により、e-Success アプリケーションの URL 情報出力で出力した CSV ファイルに入る URL アドレスへの接続で、個々の書類データ内容を Web ブラウザで直接表示できます。



e-Success リンクビューを使用するための URL アドレスは、URL 情報出力の CSV ファイルに含まれます。

URL 情報出力の CSV ファイルは、e-Success アプリケーションで手動で出力する方法と、サーバーで動作する URL 情報出力アプリケーションを使用する方法があります。URL 情報出力アプリケーションはサーバーサイドで動作し、URL 情報の CSV ファイルを定期的に自動出力できます。

B. e-Success アプリケーションで CSV ファイルを出力する

e-Success アプリケーションでは、次の手順で URL 情報出力の CSV ファイルを出力できます。

- ① 「システム管理者」権限のあるユーザーで、e-Success アプリケーションにログインします。
- ② メインメニューで「URL 情報出力」をクリックします。
- ③ URL 情報出力画面で、出力方法の設定を行います。

The screenshot shows the **URL情報出力** (URL Information Output) screen in the e-Success application.

- Header:** e-Success logo and navigation links like **メニューに戻る** (Return to Menu).
- Form Fields:**
 - CSVファイル出力パス** (CSV File Output Path): A text input field with a **参照** (Reference) button.
 - URLのプロトコル** (URL Protocol): A dropdown menu showing **http**.
 - URLのサーバー名** (URL Server Name): A text input field showing **localhost**.
 - 出力オプション** (Output Options): Radio buttons for:
 - ☐ URL情報が未出力の書類のみ出力 (Output only documents where URL information is not output)
 - ☐ 全件を出力(出力済みにする) (Output all (mark as output))
 - ☒ 全件を出力(出力済みしない) (Output all (do not mark as output))
- Footer:** **URL情報出力** (URL Information Output) and **キャンセル** (Cancel) buttons.

設定項目	設定内容
CSV ファイル出力パス	CSV ファイルを出力するフォルダを指定します。
URL のプロトコル指定	指定されているプロトコル (http または https) が表示されます。変更する場合は、処理設定の「運用設定」タブで設定してください。
URL のサーバー名	指定されている Web サーバー名が表示されます。変更する場合は、処理設定の「運用設定」タブで設定してください。
出力オプション	URL 情報が未出力の書類のみ出力 . . . URL 情報が未出力の書類のみ出力します。このとき、出力した書類の [URL リンク出力済みフラグ] を更新して出力済みにします (フラグを更新するため、次回以降出力されなくなります)。 全件を出力 (出力済みにする) . . . URL 情報が出力済みの書類も含め、全件を出力します。出力した書類の [URL リンク出力済みフラグ] を更新して出力済みにします。 全件を出力 (出力済みにしない) . . . URL 情報が出力済みの書類も含め、全件を出力します。出力した書類の [URL リンク出力済みフラグ] は更新しません。

◆ヒント◆ URL リンク出力済みフラグの利用方法

書類情報に対して内部的に保有している「URL リンク出力済みフラグ」によって、新たに登録された書類の URL アドレスだけを CSV ファイルに出力できます。「URL 情報が未出力の書類のみ出力」を選択してファイル出力を実行した場合は、URL リンク出力済みフラグがセットされていない書類のみが出力されます。実行後は、出力された書類に対してフラグがセットされ、次回以降は当該データが出力対象外となります。例えば、日次処理で当日入力された書類データのみを出力する場合などにご利用ください。

なお、当該書類に対して、修正や削除を行った場合は、出力済みフラグはクリアされ、次回の URL 情報出力の対象になります。

常に、全件を出力して入れ替えるような運用の場合、「全件を出力 (出力済みにしない)」を選択することで、URL リンク出力済みフラグをセットせずに全件出力できます。

◆注意◆ テスト出力のとき

URL 情報をテスト出力する場合は「全件を出力 (出力済みにしない)」を指定して、[URL リンク出力済みフラグ] を更新しないようにしてください。[URL リンク出力済みフラグ] を更新してしまうと、次回の出力では、今回出力した書類データが出力されません。

④ [URL 情報出力] ボタンをクリックすると、指定したフォルダに CSV ファイルが出力されます。ファイル名は、e-SuccessURL 情報出力 YYYYMMDDHHMMSS.csv となります (YYYYMMDDHHMMSS はファイル出力を実行した日時)。

< CSV ファイルの項目構成 >

接続先 . . . e-Success アプリケーションへのログイン時の接続先番号がセットされます。

書類番号
書類種類名
ファイル名
日付
金額
品名
取引先名
その他項目 1
その他項目 2
その他項目 3
その他項目 4
その他項目 5
その他項目 6
拠点名
削除フラグ
URL

※ 1 行目には項目名が出力されます。

※ 対象データが存在しない場合でも項目名の行は出力されます。

※ その他項目 1~6 については、e-Success に設定されているその他の項目名が出力されます。

※ 削除フラグは、削除書類のときに「1」が出力されます。

URL 情報出力の CSV ファイルの出力例：

The screenshot shows a CSV file named 'e-SuccessURL 情報出力 20200622193605.csv'. The header row lists the following items: 接続先, 書類番号, 書類種類名, ファイル名, 日付, 金額, 品名, 取引先名, その他項目1, その他項目2, その他項目3, その他項目4, 拠点名, 削除フラグ, URL. The data rows contain specific values for each of these fields, such as 'Successlinkview/SS001_docview.aspx?k=4fk8J2x9m&s=ZdSBY4fKC' for the URL field.

C. URL 情報出力アプリケーションで CSV ファイルを出力する

URL 情報出力アプリケーションで CSV ファイルを出力する場合には、次の手順で操作してください。

なお、この作業は、e-Success データベースに接続できる環境であれば、Web サーバーだけでなく、データベースサーバーやクライアントでも実行できます。

① e-Success のインストールメディアを開き、[e-SuccessURLDataOutput] フォルダに含まれている [e-SuccessURLDataOutput]（拡張子が表示されているコンピュータの場合には [e-SuccessURLDataOutput.exe]）を任意のフォルダにコピーします。

② e-Success アプリケーションのインストールフォルダにある「e-SuccessCSSetting」（拡張子が表示されているコンピュータの場合には「e-SuccessCSSetting.xml」）を手順②のフォルダにコピーします。

◆ヒント◆ e-SuccessCSSetting.xml

e-SuccessCSSetting.xml は、製品に付属している e-Success 接続先設定ツールで作成できます。

e-Success 接続先設定ツールについては、「e-Success-V6.0 導入・運用マニュアル」の導入・設定編「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を参照してください。

③ e-SuccessURLDataOutput.exe はパラメータを付加して実行するため、次のようにショートカットまたはバッチファイルを作成してください。

例：接続先 1 番の URL 情報未出力の書類データを"C:\¥e-SuccessURLDataOutput"に出力する。

C:\¥e-SuccessURLDataOutput¥e-SuccessURLDataOutput.exe /k=1 /path="C:\¥e-SuccessURLDataOutput"

<起動オプション>

「/k= Number」※必須項目

Number は接続先で「e-SuccessCSSetting.xml」内の<ID>タグの番号を指定する。

「/path=PathName」※必須項目

PathName は CSV ファイルの出力先パスを指定する（書き込み権限が必要です）。

/path="C:\¥e-SuccessURL"のようにダブルクォーテーションで囲む。

「/protocol=ProtocolName」※必須項目

ProtocolName には URL に出力するプロトコルとして、http または https を指定する。

※e-Success アプリケーションの処理設定の「運用設定」タブの設定値は使用されません。

「/servername=ServerName」※省略可

ServerName は URL に埋め込むサーバー名を指定する。

指定がないときは、「e-SuccessCSSetting.xml」に記述されているサーバー名をセットする。

※データベースサーバーと Web サーバーを別のコンピュータで稼働している場合は、Web サーバー名を指定する。

※e-Success アプリケーションの処理設定の「運用設定」タブの設定値は使用されません。

「/type=TypeOption」※省略可

・指定なし（省略）

URL 情報が未出力の書類のみ出力する。

出力した書類の [URL リンク出力済みフラグ] を更新して出力済みにする。

・/type=all

URL 情報が出力済みの書類も含め、全件を出力する。

出力した書類の [URL リンク出力済みフラグ] を更新して出力済みにする。

・/type=allnoupdate

URL 情報が出力済みの書類も含め、全件を出力する。

[URL リンク出力済みフラグ] は更新しない。

※起動オプションの順序は入れ替わってもよく、大文字小文字の区別はしません。

※無効な起動オプションは無視され、エラーにはなりません。

◆ヒント◆ URL リンク出力済みフラグの利用方法

書類データに対して内部的に保有している「URL リンク出力済みフラグ」によって、新たに登録された書類の URL アドレスだけを CSV ファイルに出力できます。/type オプションを付けずにファイル出力を実行した場合は、URL リンク出力済みフラグがセットされていない書類のみが出力されます。実行後には出力された書類に対してフラグがセットされ、次回以降は当該データが出力対象外となります。例えば、日次処理などで当日入力された書類データのみを出力する場合などにご利用ください。

なお、当該書類データを修正または削除すると出力済みフラグはクリアされるので、次の URL 情報出力の対象になります。

常に、全件を出力して入れ替えるような運用の場合、/type=allnoupdate と指定することで、URL リンク出力済みフラグをセットせずに全件出力できます。

◆注意◆ テスト出力のとき

URL 情報をテスト出力する場合は「/type=allnoupdate」を指定して、[URL リンク出力済みフラグ] を更新しないようにしてください。[URL リンク出力済みフラグ] を更新してしまうと、次の URL 情報出力で、今回出力した書類データが出力されません。

④ 手順③で作成したショートカットまたはバッチファイルを実行します。

URL 情報出力機能の処理対象は、電子出たにタイムスタンプが付与済みの書類データのみです（削除データは除外）。

＜出力ファイル名＞

e-SuccessURL 情報出力_Number_YYYYMMDDHHMMSS.csv

※Number には起動オプションの k（接続先）の番号がセットされます。

※YYYYMMDDHHMMSS にはファイル出力を実行した日時がセットされます。

＜ファイルレイアウト＞

接続先・・・起動オプションの k の数値が入ります。

書類番号
書類種類名
ファイル名
日付
金額
品名
取引先名
その他項目 1
その他項目 2
その他項目 3
その他項目 4
その他項目 5
その他項目 6
拠点名
削除フラグ
URL

※1 行目には項目名が出力されます。

※対象データが存在しない場合でも項目名の行は出力されます。

※その他項目 1～6 については、e-Success に設定されているその他の項目名が出力されます。

※削除フラグは削除書類のときに「1」と出力されます。

URL 情報出力の CSV ファイルの出力例：

接続先	書類番号	書類種類名	ファイル名	日付	金額	品名	取引先名	その他項目1	その他項目2	その他項目3	その他項目4	その他項目5	その他項目6	拠点名	削除フラグ	URL
1	伊那	領収書	user07 (1).pdf	2011/01/28 0:00:00	10001		株式会社001	user07 (1)	他システムデータ0001	その他3-001	その他4-001	その他5-001	その他6-001			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=ZdSBY4fKC
2	伊那	領収書	user07 (2).pdf	2010/01/15 0:00:00	10002		株式会社002	user07 (2)	他システムデータ0002	その他3-002	その他4-002	その他5-002	その他6-002			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=abX4fDRMa
3	伊那	領収書	user07 (3).pdf	2016/08/01 0:00:00	10003		株式会社003	user07 (3)	他システムデータ0003	その他3-003	その他4-003	その他5-003	その他6-003			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=bHEDRM0
4	伊那	領収書	user07 (4).pdf	2016/08/01 0:00:00	10004		株式会社004	user07 (4)	他システムデータ0004	その他3-004	その他4-004	その他5-004	その他6-004			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=cGNoL&2feUV
5	伊那	領収書	user07 (5).pdf	2016/08/01 0:00:00	10005		株式会社005	user07 (5)	他システムデータ0005	その他3-005	その他4-005	その他5-005	その他6-005			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=dSBY4fK8v
6	伊那	領収書	user07 (6).pdf	2016/08/01 0:00:00	10006		株式会社006	user07 (6)	他システムデータ0006	その他3-006	その他4-006	その他5-006	その他6-006			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=eUp9ghlCr
7	伊那	領収書	user07 (7).pdf	2016/08/01 0:00:00	10007		株式会社007	user07 (7)	他システムデータ0007	その他3-007	その他4-007	その他5-007	その他6-007			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=fK8J2x9FH
8	伊那	領収書	user07 (8).pdf	2016/08/01 0:00:00	10008		株式会社008	user07 (8)	他システムデータ0008	その他3-008	その他4-008	その他5-008	その他6-008			HTTP://localhost/esuccesslinkview/SS001.docview.aspx?k=4fK8J2x9m&s=g9h1CA8sd
9	伊那	領収書	user07 (9).pdf	2016/08/01 0:00:00	10009		株式会社009	user07 (9)	他システムデータ0009	その他3-009	その他4-009	その他5-009	その他6-009			

＜エラー処理＞

エラーが発生すると、実行した URL 情報出力アプリケーション (e-SuccessURLDataOutput.exe) と同じフォルダに [log] フォルダが作成され、その中にログファイルが出力されます。エラーが発生しなければ、ログファイルは出力されません。

e-SuccessURLDataOutput.exe のエラー一覧

内容	メッセージ	備考
e-SuccessCSSetting.xml ファイルが存在しない	e-SuccessCSSetting.xml ファイルがありません。	
同じ起動オプションが複数指定されている	/k が複数指定されています。	/k の部分が変化
起動オプションの値が指定されていない (例えば”/k”だけで続く値がない)	/k オプションの値が指定されていません。	
/k の値が e-SuccessCSSetting.xml ファイルに該当するものがない	/k オプションの値が不正です。	
/path の値が存在しないパスである	/path オプションの値が不正です。	
/type の値が”all”や”allnoupdate”ではない	/type オプションの値が不正です。	
/k が指定されていない	/k オプションは必須です。	
/path が指定されていない	/path オプションは必須です。	
/path で指定されたフォルダが作成できない	指定された出力先のフォルダが作成できません。	
出力先に書き込みできない	出力先に書き込みできません。	権限がない、リードオンリーなどで発生
CSV 出力中に例外が発生した	例外が発生しました。{例外の内容}	フィールドがない(クエリのエラー)、空き容量不足などで発生
/protocol の値が存在しない	/protocol オプションは必須です。	
/protocol の値が http、https 以外	/protocol オプションの値が不正です。	

◆ヒント◆ URL 情報の定期的な出力

URL 情報を定期的に出力する場合は、ショートカットまたはバッチファイルをタスク登録して指定時刻または指定間隔で実行してください。出力される CSV ファイルのファイル名には「e-SuccessURL 情報出力_2_20201116182214.csv」のように出力日時が含まれるので、古い CSV ファイルが上書きされることはありません。

D. e-Success リンクビューで書類を表示する

URL 情報出力の CSV ファイルに含まれる URL アドレスを Web ブラウザで開くことで、対象の書類データ内容を参照できます。Web ブラウザを起動後最初の書類データを表示する際は、e-Success リンクビューのログイン画面が表示されます。

◆ヒント◆ e-Success リンクビューの用途

e-Success リンクビューを利用すれば、URL 情報出力の CSV ファイルの URL を会計システム等に取り込むことで、会計システム等の仕訳伝票に URL を紐付けて、仕訳伝票から書類データを参照できます。仕訳伝票に登録した URL のクリックで、Web ブラウザでタイムスタンプが付与された電子データを参照するといったことが可能です。

会計システムの仕様やバージョンによっては本機能を利用できない場合がありますので、購入元にご確認ください。

◆注意◆ Cookie の利用

e-Success リンクビューでは、ユーザー認証の情報を管理するために Cookie を利用しています。Web ブラウザで Cookie を使用できるように設定してください。

◆注意◆ システム管理者のアカウント

e-Success Web サービスにはシステム管理者でのログインはできません。検索担当者、作業担当者、管理責任者のいずれかのアカウントを利用してください。各アカウントの権限については、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」をご覧ください。

e-Success リンクビューの書類表示画面では、URL アドレスで指定された書類が表示されます。タイムスタンプの検証機能、入力履歴の参照機能は持っていますが、e-Success Web サービスにある書類検索機能は利用できません。

E-Success 接続先: E-SUCCESS ユーザー名: User13 (管理責任者) ログアウト

電子ファイルレビュー

ファイル名: ScanSave-V4_1.pdf

SS001_docview.aspx 1 / 1 83% + -

請求書 2016年 9月 9日 No. _____

アテナハウス (株) (株) スキャンセーブ

下記のとおり御請求申し上げます

月日	品名	数量	単価	金額 (税抜・税込)	備考
1	Scan Save-V2	2	684000	1368000	18% 消費税
2					
3					
4					
5					
6					
7					
合 計				¥1368000	
税率 8%			消費税額	¥108800	
			税別金額	¥1468800	

書類データ内容

書類番号: 17

書類種類: 請求書

拠点: 本社

日付: 2023/09/09 ☐ 帳簿無関係

金額: 1,468,800 円

品名: 品名

取引先名: 株式会社ScanSave00

その他1: ScanSave-V4_1

その他2: CSV連携00

その他3: 拠点コード1

その他4: 119

その他5: その他5-17

その他6: その他6-17

備考

解像度: 200dpi 階調: 256 色: カラー

タイムスタンプ日時: 2023/04/19 14:58:26 検証結果: ☒ OK

タイムスタンプ付与者: 自動タイムスタンプ付与処理

タイムスタンプ有効期限: 2033/07/17 00:59:59

最終入力日時: 2023/04/19 14:58:26

最終入力者: User13

法令保存期限: 2026/05/31 23:59:59

作業日時

書類表示画面の使用方法については、「2. 書類検索・検証・表示」-「B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示する」を参照してください。

なお、Web ブラウザを閉じて、e-Success リンクビューによって他の書類を表示しようとした場合、当日中は Cookie の情報によって自動的にログインし、直接書類表示画面が表示されます。Cookie は日付が変わると自動的に削除されます。e-Success リンクビューの自動ログインを終了するには、画面右上にある「ログアウト」ボタンをクリックしてください。ログアウトすると、Cookie が削除されて自動ログインしなくなります。

◆ヒント◆ 金額の単位の切り替わり

書類種類を選択すると、「金額」の入力欄の横の単位が書類種類マスタで設定した金額の単位に切り替わります。金額の単位を「なし」に設定している場合は、非表示になります。

◆ヒント◆ PDF ファイルが複数ページある場合

複数ページで構成されている PDF は、下記のプルダウンリストが表示され、ページを選択することで各ページのスキャン画像の解像度、階調、色を確認することができます。

そして、一部分のページでも解像度、階調、色の判定基準を確保していればエラーにしません。

※なお、Word などのフィスソフトで作成したページについては、解像度、階調、色のページの詳細情報は表示されません

解像度: 141dpi 階調: 256 色: カラー

1ページ目

タイムスタンプ日時: 2022/12/22 17:16:31 検証結果: ☒ OK

タイムスタンプ付与者: 自動タイムスタンプ付与処理

タイムスタンプ有効期限: 2033/07/17 08:59:59

最終入力日時: 2023/01/31 19:52:09

最終入力者: User13

法令保存期限: 2026/11/30 23:59:59

作業日時

入力履歴

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△：検証情報の不足。ルート証明書や中間 CA 証明書、CRL ファイル等が不足している。

×：検証結果の不正。不正のケースとしては、署名情報の形式である XML として不正な文字が使われていたり、XMP として認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった場合

書類データの署名検証の結果において、タイムスタンプ情報に何らかの不備や検証時に必要な情報・ファイルが不足している場合は、結果が「△」と「×」となるケースがあります。

以下が、主要な要因となって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、の「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を参照してください。

「ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している」が不足しているケースについては、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

◆注意◆ 別のユーザーアカウントでログインする場合

e-Success リンクビューでは、ログイン情報を一時的に Cookie に保存しています。このため、別のユーザーアカウントでのログインが必要な接続先の書類を表示しようとすると、書類の表示権限がない旨のメッセージが表示され表示できません。別のユーザーアカウントでログインする必要があるときは、右上の「ログアウト」ボタンをクリックして、ログインし直してください。

◆注意◆ 取込完了後、Web ブラウザで表示可能なファイルについて

取り込んだ電子ファイルを Web 検索機能およびリンクビューの書類ビュー画面でプレビューする際、保存形式とインストールしているアプリケーションによって、Web ブラウザ上で表示できるファイルとできないファイルが存在します。

詳細は、B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示するの「◆注意◆ Web ブラウザで表示可能なファイルについて」をご確認ください。

◆注意◆ CSV ファイルのプレビューについて

対象の文字コードは、「Shift-JIS」「UTF-8」の 2 種類となりまた、自動で文字コードを判別してビューアーに表示されます。下記の点を守って、CSV ファイルを登録してください。

- ・最初の 1 行目に項目名を入力してください。
- ・値を区切る際は、「, (カンマ)」で区切ってください。

※Shift-JIS に UTF-8 の文字が含まれている等の影響によって、文字コードを誤変換し文字化けが発生する可能性があります。あらかじめご了承ください。

◆注意◆ 検証不備の PDF について

取り込んだ検証不備の PDF もタイムスタンプ付与済みの PDF と同様、画面を開くと、PDF に付与されているタイムスタンプを検証します。

しかし、検証不備であることから正確なタイムスタンプ日時等の情報がないため、検証結果が「○」となってその有効性が認められるまでは、検証結果以外のタイムスタンプ付与に関わる情報は表示されません。

検証不備の書類は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプを付与することができます。また、タイムスタンプ付与した場合は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプ日時が記録され、検証することも可能です。

しかし、検証不備のタイムスタンプと二重で署名になることから、タイムスタンプサービスのタイムスタンプに問題はなくても、検証不備のタイムスタンプに問題がある場合は、結果が「△」となり有効化が認められません。

また、不足しているルート証明書、中間 CA 証明書を追加する等といった対応行って、検証不備のタイムスタンプを有効化するか、できない場合は論理削除等するなり適宜運用をしてください。

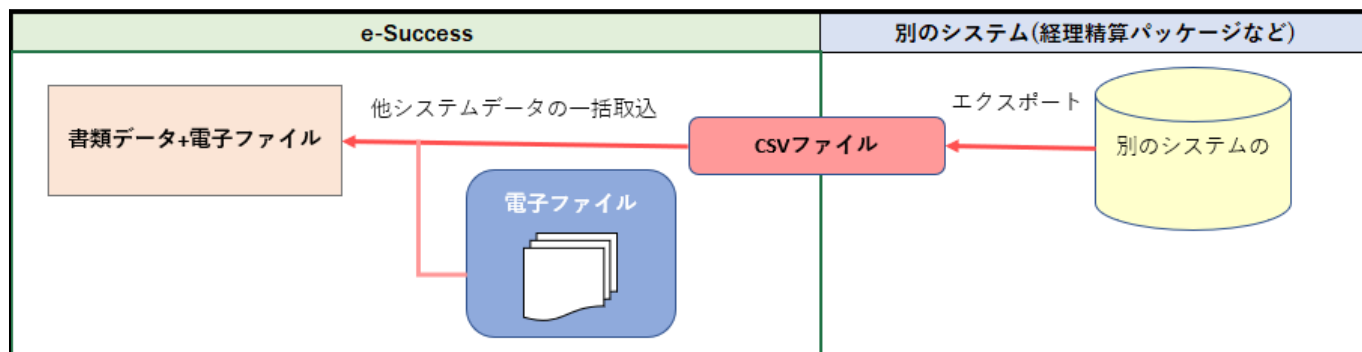
※検証不備の書類に対してタイムスタンプ付与する場合は、自動タイムスタンプ付与アプリで検証不備の書類に付与できるように設定する必要があります。

設定方法は、「e-Success Standard/Pro 導入・運用マニュアル」の「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」の「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を確認してください。

4. 他システムデータの一括取込

A. 一括取込の概要

他システムデータの一括取込機能を利用すると、あらかじめ準備しておいた他のシステム（経費精算パッケージなど）のデータと該当データ分の電子ファイルを一括で取り込めます。取り込んだデータは、検索用項目が入力された状態になり、すぐにタイムスタンプを付与できます。



◆注意◆ 各OSの文字コードの扱いについて

OSごとに、扱われている文字コードが異なっております。Windowsは主に「Shift-JIS」、Mac OS/Linux系は主に「UTF-8」が採用されております。

そのため、外部システムで出力したCSVにもOSが採用している文字コードの影響が出る可能性があります。本機能を使用する前にCSVファイルの文字コードを確認してください。

◆注意◆ 他システムデータの一括取込の利用権限

他システムデータの一括取込は、管理責任者のみが利用できます。各アカウントの権限については、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」をご覧ください。

◆注意◆ 複数ユーザーによる同時利用制限

他システムデータの一括取込機能は、複数のユーザーの同時利用はできません。[データインポート] ボタンをクリックしたとき、他のユーザーが利用中の場合は、「別のユーザーが一括取込処理を実行しています。」というエラーメッセージが表示されます。その場合は、しばらく待ってから再実行してください。

◆注意◆ 他システムデータの一括取込機能の前提要件

「他システムデータの一括取込」機能を利用する場合は、次の前提要件を満たしていることを確認してください。

- ・一括取り込みされるスキャン画像とCSVファイルのデータ整合性が確認されていること
- ・紙原本とスキャン画像の照合がされていること
- ・関連法令の要件が確保されていること
- ・重要書類は、読み取る際の相互けん制が確保されていること
- ・書類種類ごとに必要な項目のみがCSVファイルに格納されていること
- ・書類種類マスタで登録されている書類種類IDが指定されていること
- ・拠点マスタで登録されている拠点コードが指定されていること

◆注意◆ 登録できない日付について

以下は、SQL Server、e-Successの各アプリケーションの仕様上で登録できない日付です。

- ・1753/1/1 より前の日付は登録できません。
- ・10000/1/1 以上の日付は登録できません。
- ・課税関連書類がオンの書類種類で登録している書類データについては、9992/1/1 以降の日付は登録できません。

◆注意◆ インポート可能件数

1回の操作でインポートできる件数は、最大1000件までとなります。

◆注意◆ 金額の単位が「ドル」「ユーロ」「なし」の場合

設定した書類種類の「金額の単位」が「ドル」「ユーロ」「なし」の場合、小数第三位までの金額を取り込めます。小数第四位以下の金額を入れた場合は、小数第四位に対して、書類種類マスタの「外貨の小数第四位の対応」で設定した「切り捨て」「四捨五入」「切り上げ」を実行してから登録されます。

◆注意◆ 取込完了後、Webブラウザで表示可能なファイルについて

取り込んだ電子ファイルをWeb検索機能およびリンクビューの書類ビュー画面でプレビューする際、保存形式とインストールしているアプリケーションによって、Webブラウザ上で表示できるファイルとできないファイルが存在します。詳細は、B. タイムスタンプ処理が終了したファイルを表示するの「◆注意◆ Webブラウザで表示可能なファイルについて」をご確認ください。

◆注意◆ タイムスタンプ方式ごとに取り込める電子ファイルの種類

設定したタイムスタンプ方式によって、取り込める電子ファイルの種類の数異なります。以下は、「PAdES」「XAdES」の各タイムスタンプ方式が対応している電子ファイルの種類を示した表になります。

タイムスタンプ方式	電子ファイルの種類
PAdES	PDF(.pdf)
XAdES	PDF(.pdf), JPEG(.jpg, .jpeg), PNG(.png), TIFF(.tif, .tiff), Docuworks(.xdw), Word(.doc, .docx), Excel(.xls, .xlsx), PowerPoint(.ppt, .pptx), CSV(.csv)

◆注意◆ 「書類番号」のスキップの発生について

書類番号の生成は、SQL Server の自動採番処理によって行われています。

しかし、「他システムデータの一括取込」処理中に実行される書類番号 (ID) の生成処理中に番号をスキップするケースがあります。

※なお、書類番号がスキップされるのみで、書類の取込自体には特に影響ありません。

書類番号のスキップが発生する原因の例としては、以下のようなものがあります。

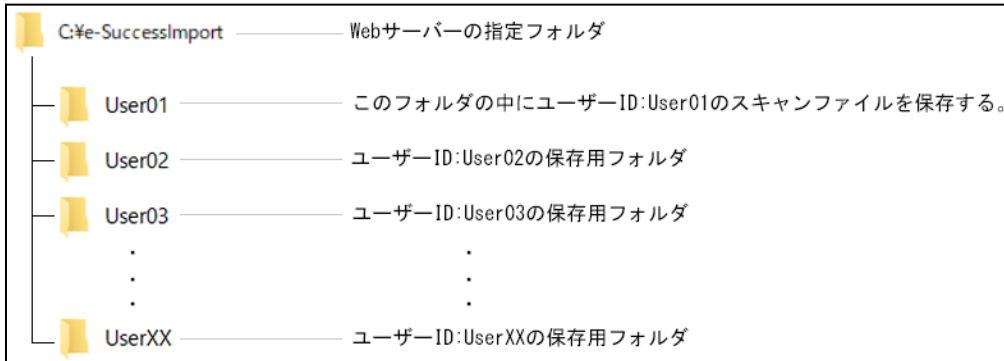
トランザクションのロールバック	書類データ、電子ファイルの取込時に、途中で何らかのトラブルが発生して取込に失敗した場合は、e-Success でデータベースを取込前の状態に戻します。 その際、通常は SQL Server 側で自動採番の ID(書類番号) も取込前の状態に戻りますが、SQL Server 側が自動採番の ID(書類番号) を取込前の状態に戻さずにそのまま残るケースがあります。
サーバーの再起動	SQL Server の再起動時に、自動採番の ID(書類番号) がキャッシュされている場合、キャッシュされた自動採番の ID(書類番号) が失われることがあります。
高速取込処理	「他システムデータ一括取込」などで大量データ※を取り込もうとした時、SQL Server の自動採番処理が同時に ID(書類番号) を生成し、競合が発生してスキップされるケースがあります。 ※大量データについて：1000 件以上のデータ

B. 一括取込の電子ファイルを保存する

① 他システムデータの一括取込で使用する電子ファイルは、あらかじめWebサーバーの指定フォルダに保存します。

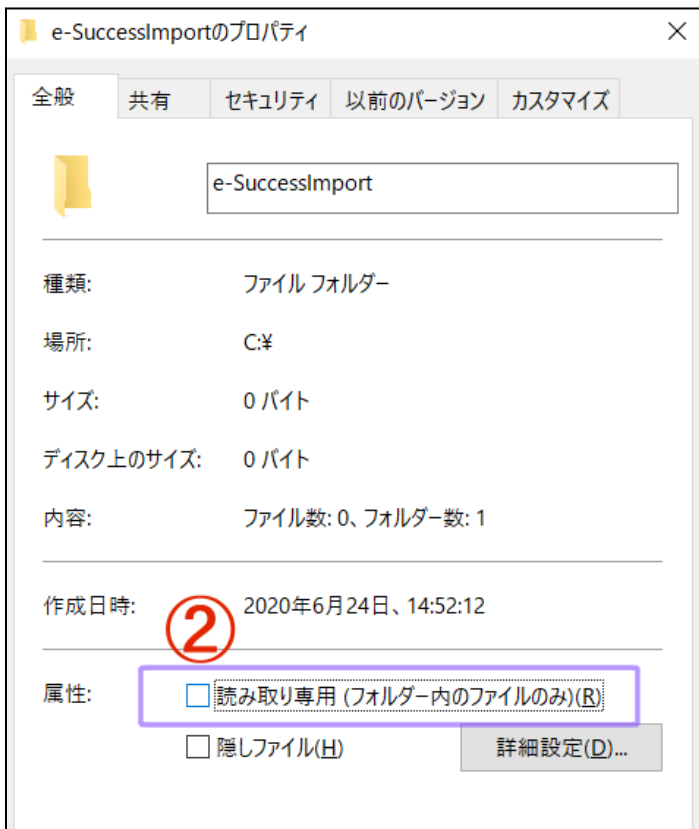
電子ファイルのフォルダ（既定ではWebサーバーのC:\e-SuccessImport フォルダ）は、ユーザーごとにサブフォルダを用意する必要があります。

例：

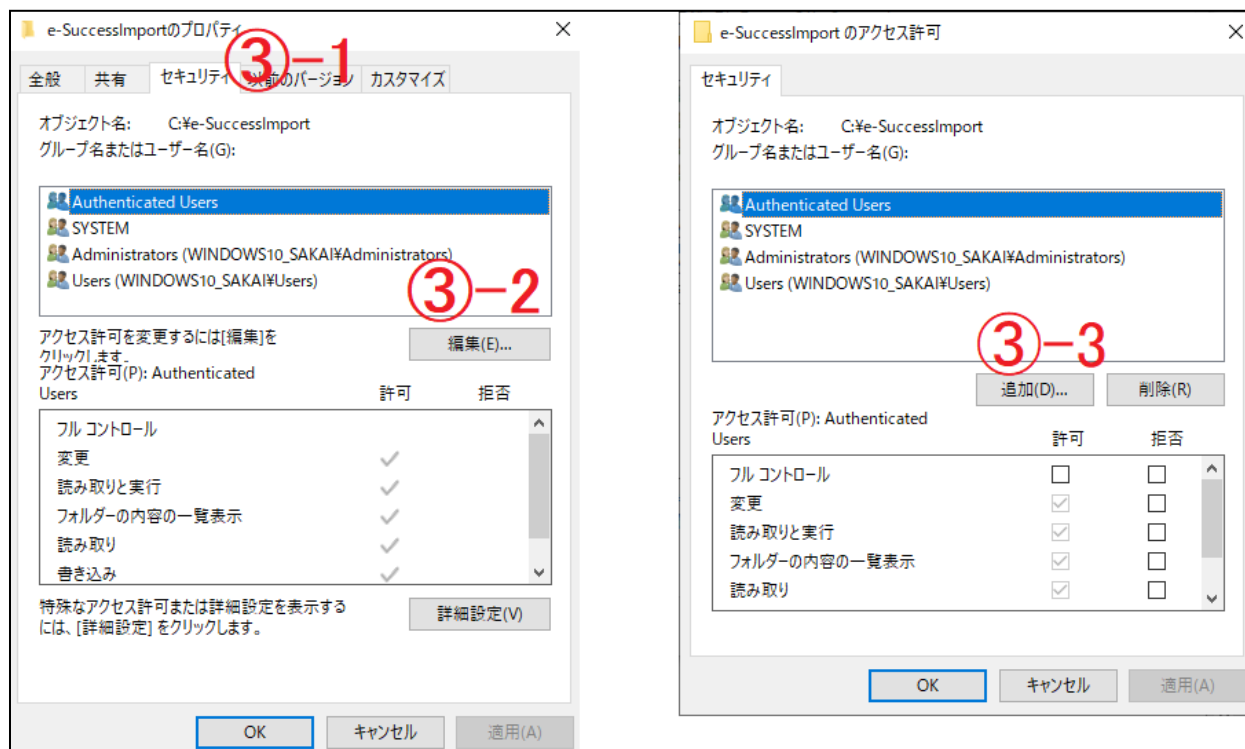


② 用意ができたなら、電子ファイルのフォルダを右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ] を選択します。

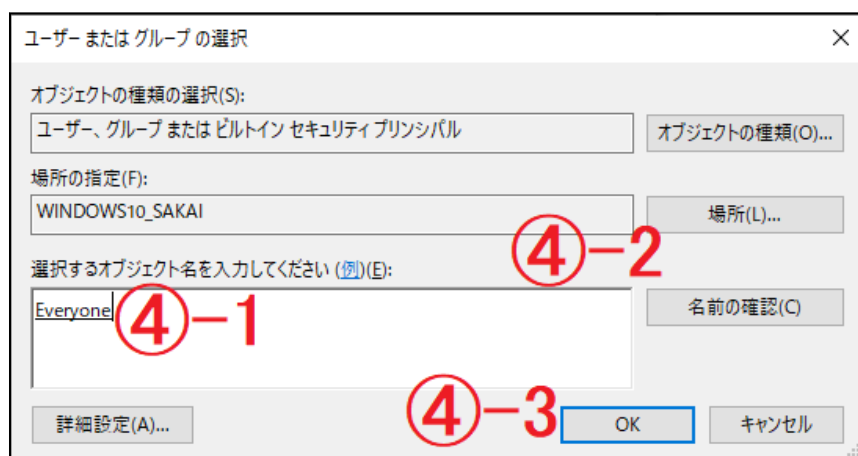
フォルダのプロパティで、[全般] タブにある [属性] の [読み取り専用] 項目のチェックを外してください。



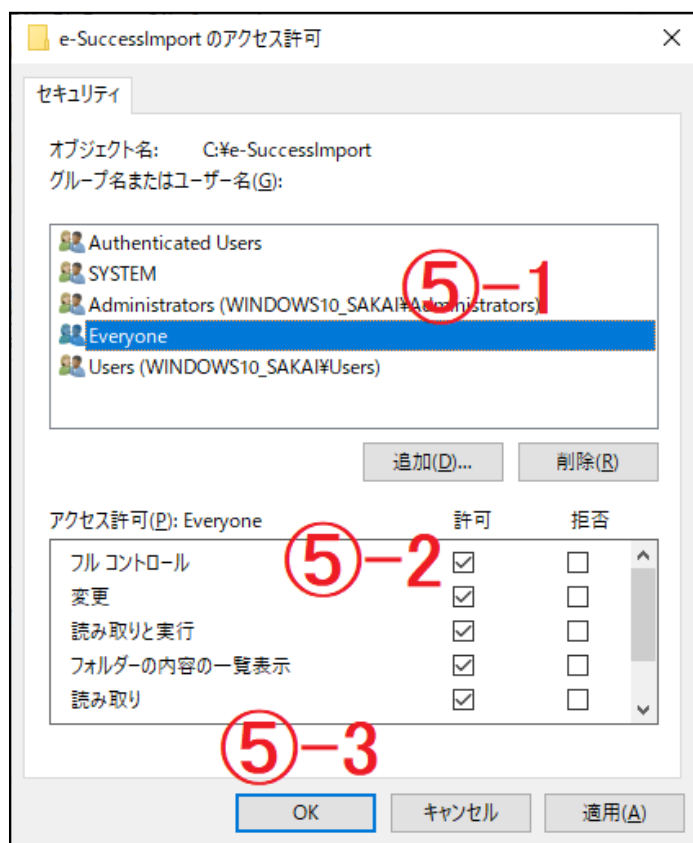
③ 他のユーザーがアクセスできるようにユーザーを追加します。[プロパティ]より[セキュリティ]タブをクリックし、[編集] ボタンをクリックし、アクセス許可画面の[追加] ボタンをクリックします。



④ 選択するオブジェクト名に「Everyone」と入力し、[名前の確認]をクリックし、[OK]をクリックしてユーザーを追加します。



⑤ ユーザーの追加が完了したら、Everyone を選択して、アクセス許可をフルコントロールにチェックを入れ、[OK] をクリックします。あと、プロパティを [OK] をクリックして登録していけば完了です。



◆注意◆ Web.config で設定

Web 検索機能が、本項で設定した他システムデータ一括取込用のフォルダを読み込むには、Web.config で「BULKIMPORT_FOLDER」属性にて設定したフォルダを指定する必要があります。詳細は、C. e-Success Web サービスを構築する の「◆ヒント◆ フォルダの変更」を確認してください。

以上で、設定方法は完了となります。

C. 他システムのデータを取り込む

他システムデータの一括取込は次の手順で行います。

① あらかじめ、他のシステムから出力して加工した CSV ファイルを用意します。使用できる CSV ファイルの仕様は、次のようになります。

ファイル仕様：CSV

文字コード：UTF-8、Shift-JIS

改行コード：CRLF（レコードの区切りおよび備考欄の改行コードとして設定）

ファイル名：任意

その他特記事項：

- ・ 1 行目は任意の項目名とします（1 行目の項目名はインポートに影響しません）。
- ・ 列の並び順は固定です。
- ・ CSV 形式で、カンマ区切りとします。各項目の値は ” ” で囲んでください。

◆注意◆ 他システムデータの一括取込機能の前提要件

「他システムデータの一括取込」機能を利用する場合は、以下の前提要件を満たしていることを確認してください。

- ・ 一括取り込みされるスキャン画像と CSV ファイルのデータ整合性が確認されていること
- ・ 紙原本とスキャン画像の照合がされていること
- ・ 関連法令の要件が確保されていること
- ・ 重要書類は、読み取る際の相互けん制が確保されていること
- ・ 書類種類ごとに必要な項目のみが CSV ファイルに格納されていること
- ・ 書類種類マスタで登録されている書類種類 ID が指定されていること
- ・ 拠点マスタで登録されている拠点コードが指定されていること

◆注意◆ インポート可能件数

1 回の操作でインポートできる件数は、最大 20000 件までとなります。

【CSV ファイルの項目と仕様】：

項目名	データ型	文字数	備考
書類種類 ID	数値	カンマなし 3 桁 (1~999 まで)	書類の書類種類 ID を登録します (書類種類名ではないので注意してください)。書類種類 ID は、書類種類マスタの編集画面で確認できます。書類種類マスタ管理については、導入・設定編「7. 拠点マスタの利用」を参照してください。
拠点コード	文字列	20 文字	書類の拠点コードを登録します (拠点名ではないので注意してください)。拠点コードは、拠点マスタの一覧画面で確認できます。拠点マスタ管理については、導入・設定編「4. 拠点マスタの利用」を参照してください。
日付	日付	YYYY/M/D 形式または YYYY/MM/DD 形式	
金額	数値	カンマなし 19 桁 (整数 15 桁、小数第 4 位まで)	
取引先名	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
品名	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
その他 1	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
その他 2	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
その他 3	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
その他 4	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで
その他 5	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで ※「処理設定」で「CSV レイアウトのバージョン」を「V5/V4」に設定している場合は、本項目を削除
その他 6	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで ※「処理設定」で「CSV レイアウトのバージョン」を「V5/V4」に設定している場合は、本項目を削除
備考	文字列	200 文字	全角半角共に 200 文字まで、改行可能

◆ヒント◆ CSV ファイルのレイアウトについて

取り込む CSV ファイルのレイアウトは、「e-Success-V6」「e-Success-V5/ScanSave-V4」の2種類あります。
V5以前のCSVレイアウトを使用する場合は「e-Success-V5/ScanSave-V4」を「処理設定」画面で設定します。
V6のレイアウトを使用する場合は「e-Success-V6」で設定し、これまで扱われていた「e-Success-V5/ScanSave-V4」CSVファイルの「その他4」の項目の右隣に「その他5」「その他6」の項目が追加します。
CSVのレイアウトを設定する方法は、別途マニュアル「e-Success 操作マニュアル」の「◆導入・設定編◆」の「3. 処理設定」の「C. 運用設定の設定内容」を参照してください。

◆ヒント◆ CSV ファイルの区切りについて

e-Success において CSV ファイルで使用する区切り文字は、「,(カンマ)」区切りが仕様です。なお、「”,”」もしくは「,」区切りは、どちらでも受け付けます。
※「”(ダブルクォーテーション)」で、データを囲っていない場合、「(スペース)」の文字が認識されない事があるので、「”」付が推奨となります。

◆ヒント◆ 項目名を必ず書いてください

「項目名」の行はCSVの1行目に必要です。なお、CSV ファイルのデータ例「項目名」の「その他N」は、任意に書換可能です。

※項目名の文字コード(Shift-JIS/UTF-8)を基準とするので、2行目以降のデータに1行目に合わせて任意の文字コードで、保存してください。

※「項目名」および「項目に沿ったデータ」の数が合致しない場合は、エラーになり取り込みません。

◆ヒント◆ 書類種類ごとの各項目の利用

日付～その他6の各項目については、書類種類マスタで利用可否の設定を行うことができます。仮取込機能でインポートするCSVファイルについては、書類種類ごとに必要な項目についてセットした状態にしてください。なお、利用不可の項目にデータが含まれていた場合、CSVファイルのインポートや書類登録の作業自体には影響はありませんが、当該項目について登録が行われません。

書類種類マスタの登録方法については、「e-Success-V6.0 操作マニュアル」の導入・設定編「9. 書類種類マスタ管理」を参照してください。

◆注意◆ 仮取込用 CSV ファイルの注意事項

書類データの先行取込用 CSV ファイルについては、以下の点に注意してください。

- ・書類種類マスタで登録されている書類種類IDが指定されていること
- ・拠点マスタで登録されている拠点コードが指定されていること

このCSVファイルでは、その他項目1(7列目)～その他項目6(12列目)のいずれかに電子ファイルのファイル名が格納されている必要があります。

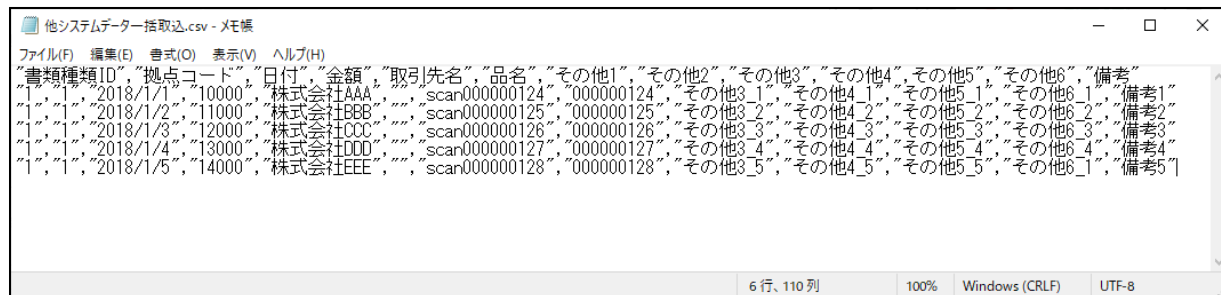
次のサンプルでは、その他項目1(7列目)の「ファイル名」列にファイル名が格納されています。

【CSV ファイルのデータ例 (CSV レイアウトのバージョンを V6 に設定している場合)】:

```
"書類種類ID","拠点コード","日付","金額","取引先名","品名","その他1","その他2","その他3","その他4","その他5","その他6","備考"
"1","1","2018/1/1","10000","株式会社AAA","","","scan000000124","000000124","その他3_1","その他4_1","その他5_1","その他6_1","備考1"
"1","1","2018/1/2","11000","株式会社BBB","","","scan000000125","000000125","その他3_2","その他4_2","その他5_2","その他6_2","備考2"
"1","1","2018/1/3","12000","株式会社CCC","","","scan000000126","000000126","その他3_3","その他4_3","その他5_3","その他6_3","備考3"
"1","1","2018/1/4","13000","株式会社DDD","","","scan000000127","000000127","その他3_4","その他4_4","その他5_4","その他6_4","備考4"
"1","1","2018/1/5","14000","株式会社EEE","","","scan000000128","000000128","その他3_5","その他4_5","その他5_5","その他6_5","備考5"
備考5_1行目
備考5_2行目
```

※ このサンプルは、「品名」を使用しない書類の例になっています。このため、品名の列はすべての行が値なし(「」)となります。また、5行目の備考には改行が含まれています。

CSV ファイルをメモ帳で開くと、次のようになります。



② インポートする CSV ファイルと一致する電子ファイルを準備します。このとき、電子ファイルは、システムで設定している方式 (PAdES または XAdES) で使用できる種類 (PDF、JPEG、PNG、TIFF、XDW、CSV および Office ファイル (DOC、DOCX、XLS、XLSX、PPT、PPTX)) のファイルを用意してください。

③ e-Success Web サービスにログインして、ヘッダーにある [その他機能] メニューから [他システムデータの一括取込] リンクをクリックします (管理責任者以外のユーザーでは、[その他機能] メニューは表示されません)。

④ [参照] ボタンをクリックし、一括取込用の CSV ファイルを指定します。

接続先: E-SUCCESS

ユーザー名: User13 (システム管理者) 拠点名: 全拠点

他システムデータの一括取込

CSVファイル	※	ファイルを選択 選択されていません
文字エンコード	※	☒ Shift-JIS ☐ UTF-8
CSVのレイアウトバージョン	※	e-Success-V5/ScanSave-V4
ファイル名の列	※	☒ その他1 ☐ その他2 ☐ その他3 ☐ その他4 ☐ その他5 ☐ その他6
電子ファイルの拡張子		☐ あり ☒ なし
電子ファイル		28ファイル ファイル一覧
必須項目		☐ 空欄を許可する
日付が明日以降の書類を取込		☒ 取込を許可する ※取込が成立していない場合、電子帳簿保存法違反になる可能性があります。
署名検証不備のPDFを取込 ※PAdES 方式のみ		☐ 取込を許可する

データインポート

キャンセル

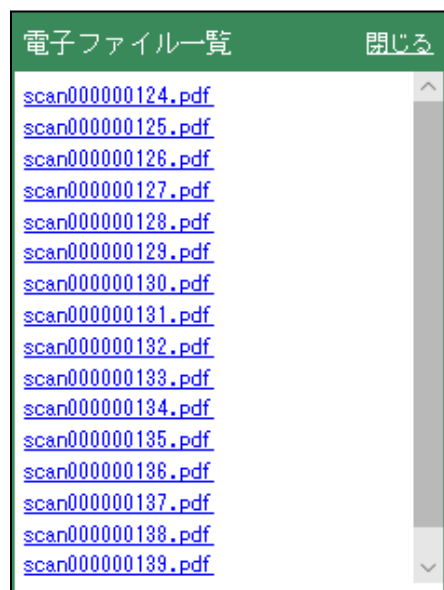
【重要】「他システムデータの一括取込」機能利用における前提要件

- ・一括取込される電子ファイルとCSVファイルのデータ整合性が確認されていること
- ・紙原本とスキャン画像の照合がされていること
- ・電子帳簿保存法の保存要件が確保されていること
- ・書類種類ごとに必要な項目のみがCSVファイルに格納されていること

取込完了後、取込元のフォルダに保存しているファイルの処分は、ユーザーの判断で行ってください。

⑤ 「ファイル名の列」で、その他項目 1～6 のうち、電子ファイルのファイル名が格納されている列を指定します。

⑥「電子ファイル」には、Webサーバーの指定フォルダに格納されているファイル数が表示されます。なお、指定フォルダはユーザー単位に管理されるため、現在e-Success Webサービスにログオンしているユーザーの電子ファイルのみが対象となります。[ファイル一覧] ボタンをクリックすると、ファイル一覧でそれぞれのファイルを確認できます。



電子ファイルのエラーメッセージ：

- | | | |
|---------------------|----|------------------------------------|
| 「電子ファイルフォルダが未設定です。」 | …… | Webサーバーで電子ファイルフォルダの設定がされていません。 |
| 「対象フォルダが存在しません。」 | …… | Webサーバーで指定されている電子ファイルフォルダが存在しません。 |
| 「電子ファイルがありません。」 | …… | Webサーバーの電子ファイルフォルダに対象のファイルが存在しません。 |

⑦ [電子ファイルの拡張子] が「あり」のときは、CSV ファイルに記載されている電子ファイル名を拡張子ありとして処理します。「なし」のときは、システムで設定している方式がPAdES のときはPDF ファイル、XAdES のときはPDF、JPEG、PNG、TIFF、XDW、CSV および Office ファイル (DOC, DOCX, XLS, XLSX, PPT, PPTX) のいずれかが対象となります。

◆注意◆ [電子ファイルの拡張子] で選択の誤りによるファイル名の不一致

[電子ファイルの拡張子] の選択の誤りで、CSV ファイルの書類データのファイル名と実際の電子ファイルのファイル名で、不一致のエラーが起きることが各所見受けられるようになりました。書類データのファイル名に記載されているその他の項目の内容を確認し、[電子ファイルの拡張子] を正しく選択してください。

⑧ 必須項目が空欄でもエラーにせずに入込を実行する場合は、[空欄を許可する] チェックボックスをオンにしてください。

⑨ [データインポート] ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。完了メッセージが表示されたら、[検索画面に戻る] ボタンをクリックしてください。

以上の操作で、他システムデータの一括取込処理を実行できます。

インポートしたデータは、検索用項目の入力が完了した状態になります。このとき、処理設定で「タイムスタンプ付与済みのPDFを取り込む」がオンに設定されていると、自動的にタイムスタンプ付与済みとなります。

◆ヒント◆ ファイル名が重複している場合

インポートデータに重複したファイル名が存在している場合は、自動的にファイルを複製して処理を行うようになっていきます（ファイル名が電子ファイル名_1.pdf～電子ファイル名_n.pdfとなります）。この処理が実行されると、処理の完了時に「※一部のスキャン画像を複製しました。」と表示されます。

◆ヒント◆ タイムスタンプ付与済みのPDFを取り込む場合

処理設定で「タイムスタンプ付与済みのPDFを取り込む」がオンに設定されているときは、タイムスタンプ情報を書類情報に取り込みます（PaDESでのみ利用可能）。登録処理の実行時に、タイムスタンプ付与済みのPDFファイルについては、タイムスタンプ情報が書類データに取り込まれます。このとき、タイムスタンプ日時にはPDFファイルのタイムスタンプ日時がセットされ、タイムスタンプ付与者には「事前タイムスタンプ付与」がセットされます。なお、処理設定の「付与回数集計にカウントする」がオンの場合は、「タイムスタンプ付与回数集計」のタイムスタンプ回数が加算されます。

◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△：検証情報の不足。ルート証明書や中間CA証明書、CRLファイル等が不足している。

×：検証結果の不正。不正のケースとしては、署名情報の形式であるXMLとして不正な文字が使われていたり、XMPとして認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

◆注意◆ 他システムデータの一括取込を使用する前に

他システムデータの一括取込を使用する場合は、必ず他のシステム側でCSVファイルと電子ファイルの整合性を確保してから、当機能をご利用ください。

◆注意◆ 同じ電子ファイルで複数の書類種類が存在する場合

CSVファイル中に書類種類IDの異なる書類データに同じ電子ファイル名があると、[同意して処理を実行する] ボタンのクリック時にエラーメッセージが表示され、インポートは実行できません。複数の書類データに1つの電子ファイルに対応付けるには、同じ書類種類IDをセットする必要があります。

◆注意◆ 明日以降の日付が記されている書類データを登録する場合

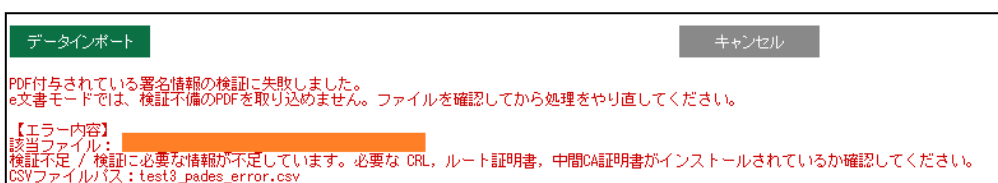
Web検索機能の他システムデータ一括取込おきましては、通常の場合、明日以降の日付が記されている書類データを取り込むことができません。もし登録したい場合は、先に「日付が明日以降の書類を取込」の「取込を許可する」にチェックを入れてから「データインポート」を実行してください。

◆注意◆ 取り込み後のCSVファイルと電子ファイル

取り込み処理を実行したCSVファイルと電子ファイルは、元のフォルダにそのまま残されます。運用にあわせて、削除または移動等の処理を行ってください。

◆注意◆ タイムスタンプ付与済みのPDFとして扱われない場合

タイムスタンプ付与済みのPDFを取り込む際、タイムスタンプ検証に失敗して検証不備となる場合があります。検証不備となったPDFは、「付与済み」として扱われず、下記の画像のエラーが表示されます。



この現象は、主に以下の要因によって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書証明書、中間CA証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDFに付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間CA証明書の有効期限や有効性の情報を記述されたCRLファイル、OCSPファイルの取得先のURLが記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRLファイル、OCSPファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PaDESにおきましては、CRLファイル、OCSPファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PaDESのみ)」を参照してください。

「ルート証明書証明書、中間CA証明書が不足している」が不足しているケースについては、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正確、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

「検証不備」の書類は、取り込むことが可能です。取り込む場合は、「署名検証不備のPDFを取込」の項目より「取込を許可する」にチェックを入れてから、取り込んでください。



◆注意◆ 検証不備のPDFの取り込みについて

取り込んだ検証不備のPDFは、「処理」項目を見ると以下のようにセルが水色で表示されます。タイムスタンプ付与済みのPDFと同様検証することは可能ですが、正常なタイムスタンプ付与済みのPDFとは扱われていない状態です。書類検証して、結果が「○」となりその有効性が認められるまでは、セルは水色の表示のままとなります。

処理	書類番号▲	検証結果	法令保存期限日
☐	0000193		2028/05/31
☐	0000200		2028/05/31

検証不備の書類は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプを付与することができます。また、タイムスタンプ付与した場合は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプ日時が記録され、検証することも可能です。

しかし、検証不備のタイムスタンプと二重で署名になることから、タイムスタンプサービスのタイムスタンプに問題はなくとも、検証不備のタイムスタンプに問題がある場合は、結果が「△」となり有効化が認められません。

また、不足しているルート証明書、中間CA証明書を追加する等といった対応行って、検証不備のタイムスタンプを有効化するか、できない場合は論理削除等するなり適宜運用をしてください。

※検証不備の書類に対してタイムスタンプ付与する場合は、自動タイムスタンプ付与アプリで検証不備の書類に付与できるように設定する必要があります。

設定方法は、「e-Success Standard/Pro 導入・運用マニュアル」の「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」の「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を確認してください。

なお、e文書モードをご利用されている場合は、検証不備のPDFを取り込むことができません。

ご不明の場合は、弊社サポートまでお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター
メールアドレス: edocument@antenna.co.jp

制限・注意事項一覧

■サポートする Web ブラウザ

e-Success Web サービスがサポートする Web ブラウザは、当マニュアルの「動作に必要な環境 (クライアント)」に記載のソフトウェアのみとなります。それぞれ最新のバージョンが対象となり、以前のバージョンはサポート対象外となる点に注意してください。また、スマートフォンやタブレットはサポート対象外となります。

■DocuWorks ファイルの表示

DocuWorks ファイルを表示する場合は、各クライアントに DocuWorks, Docuworks Viewer Light のインストールが必要となります。

■Docuworks ファイルの閲覧機能のバージョン指定

「Docuworks」もしくは「Docuworks Viewer Light」は、バージョンによって MIME タイプが異なります。そのため、Internet Explorer 利用して Docuworks ファイルを表示したいときは、先に Web.config の「DOCUWORKS_VER」属性の「value」で Docuworks のバージョンを指定してください。

```
<!-- Docuworks のバージョン設定 -->  
<add key="DOCUWORKS_VER" value="9" />
```

value に入れる、バージョン番号

8 以下の場合: 8

9 以上の場合: 9

■IE モードのサポート期限

DocuWorks ファイルの表示にも使用する Microsoft Edge のIEモードのサポートですが、2029年をもって終了予定となります。(詳細な日程は未定)。

■他システムデータの一括取込における制限事項

他システムデータの一括取込機能は、複数のユーザーの同時利用はできません。また、1回の操作でインポートできる件数は、最大1000件です。

■検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△: 検証情報の不足。ルート証明書や中間CA証明書、CRL ファイル等が不足している。

×: 検証結果の不正。不正のケースとしては、検証情報が全くない。署名情報の形式である XML として不正な文字が使われていたり、XMP として認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

■タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合

タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む際、タイムスタンプ検証に失敗して検証不備となる場合があります。検証不備となった PDF を取り込む場合は、「付与済み」として扱われず「検証不備」のステータスとして扱って取り込まれます。

この現象は、主に以下の要因によって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書証明書、中間CA証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間CA証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL

ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を参照してください。

「ルート証明書証明書、中間 CA 証明書が不足している」が不足しているケースについては、A. タイムスタンプ処理が終了したファイルを検索するの「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

■金額の単位が「ドル」「ユーロ」で、小数点以下を入力する場合

書類データに設定した書類種類の「金額の単位」が「ドル」「ユーロ」で設定されている場合、小数第三位までの金額を取込みができます。小数第四位以下の金額を入れた場合は、小数第四位に対して、書類種類マスタの「外貨の小数第四位の対応」で設定した「切り捨て」「四捨五入」「切り上げ」を実行してから登録されます。

■旧バージョンのデータベースからアップグレードした場合

SQL Server インスタンス上で稼働しているデータベースを旧バージョン (ScanSave-V3/ScanSave-V4/e-Success-V5) からアップグレードした場合、クライアントアプリ (e-Success.exe) を使用して「処理設定」の「事業年度開始月」を設定する必要があります。

設定していない間は、Web 検索機能の「他システムデータの一括取込」がご利用できませんので、必ず設定してください。

■e-Success on ONeSaas をご利用の場合

e-Success on ONeSaas をご利用の場合は、別途仕様上の制限や条件などの異なる部分が存在します。最新情報については

<https://www.antenna.co.jp/e-success/ss-on-onesaas.html>

を参照してください。

e-Success-V6.5 Web サービス 導入・操作マニュアル

発行日 2023 年 5 月 1 日

改訂日 2026 年 5 月 11 日

発行元 アンテナハウス株式会社